

令和2年度

公益社団法人 日本薬理学会

## 学術評議員会・通常総会資料

令和2年3月16日(月) 午後5時より  
パシフィコ横浜 会議センター5階 A会場  
(横浜市西区)

### 資料目次

I.	令和1年度事業報告	1
II.	令和1年度決算報告	6
III.	令和2年度事業計画	16
IV.	令和2年度収支予算	19
V.	名誉会員候補者一覧	23
VI.	永年会員候補者一覧	24
VII.	部会選出新常置委員会委員一覧	25
VIII.	規則の制定・変更	26
IX.	理事会等報告	30
X.	委員会等報告	33
XI.	新学術評議員候補者一覧	43
XII.	薬理学エドゥケーター認定者一覧	46

日本薬理学会ホームページ

〈 <http://www.pharmacol.or.jp> 〉

日本薬理学会ホームページ英語版

〈 <http://en.pharmacol.or.jp/> 〉

J P S ホームページ

〈 <http://www.journals.elsevier.com/journal-of-pharmacological-sciences> 〉

公益社団法人日本薬理学会  
令和2年度学術評議員会及び通常総会

1. 開催日時：令和2年3月16日（月）午後5時より
2. 開催場所：パシフィコ横浜 会議センター5階 A会場
3. 付議事項

第1号議案	理事・監事承認の件
第2号議案	令和1年度事業報告及び収支決算承認の件
第3号議案	令和2年度事業計画及び収支予算の件
第4号議案	諸規則の件
第5号議案	名誉会員及び永年会員の件
第6号議案	第95回年会長の件
第7号議案	新学術評議員の件

代 議 員 一 覧

(任期：2018年10月5日から2020年に実施される代議員選挙の日まで)

【北 部 会】(20名)

安東 嗣修	石井 邦明	泉 剛	岡村 信行	乙黒 兼一	久場 敬司
佐伯万騎男	笹岡 利安	佐藤 岳哉	谷村 明彦	丹野 孝一	當瀬 規嗣
東田 千尋	弘瀬 雅教	堀之内孝広	南 雅文	村上 学	森 寿
守屋 孝洋	若森 実				

【関東部会】(50名)

赤羽 悟美	安東賢太郎	飯野 正光	石川 智久	磯濱洋一郎	稲津 正人
岩井 信市	内田 直樹	梅村 和夫	大石 一彦	大内 基司	小野 景義
粕谷 善俊	諫田 泰成	木内 祐二	葛巻 直子	呉林なごみ	黒川 和宏
黒川 洵子	小泉 修一	輿水 崇鏡	小菅 康弘	三枝 禎	斎藤 顕宜
坂本 謙司	佐藤 洋美	芝崎 真裕	杉山 篤	関野 祐子	高野 博之
武田 弘志	田中 光	田中 芳夫	田辺 光男	富田太一郎	内藤 篤彦
成田 年	野部 浩司	林 啓太郎	藤田 朋恵	堀 正敏	堀江 俊治
松木 則夫	松本 明郎	三澤日出巳	宮岸 寛子	村山 尚	森 友久
森本 達也	山口 重樹				

【近畿部会】(47名)

吾郷由希夫	浅沼 幹人	天ヶ瀬紀久子	安屋敷和秀	荒木 良太	石井 優
泉 安彦	岩田 和実	上原 孝	大澤 匡弘	大野 行弘	大矢 進
小坂田文隆	小澤光一郎	貝淵 弘三	笠井 淳司	金田 勝幸	川畑 篤史
北中 純一	北中 順恵	北村 佳久	倉本 展行	酒井 規雄	白川 久志
宝田 剛志	田中 秀和	田中 宏幸	土屋浩一郎	徳山 尚吾	富田 修平
奈邊 健	西村 有平	西山 成	西山 信好	萩原 正敏	原 英彰
人見 浩史	藤井 正徳	藤尾 慈	前田 定秋	水谷 暢明	村木 克彦
森 秀治	山村 寿男	吉岡 靖啓	吉栖 正典	米山 雅紀	

【西南部会】(20名)

今村 武史	岩崎 克典	江頭 伸昭	大戸 茂弘	片岡 泰文	香月 博志
黒瀬 等	齊藤 源頭	佐藤 友昭	島添 隆雄	清水 孝洋	首藤 剛
田頭 秀章	武田 泰生	筒井 正人	西 昭徳	宮田 篤郎	柳田 俊彦
山口 拓	和田孝一郎				

以上 137 名

# I. 2019 (平成 31/令和 1) 年度事業報告

## 1. 学術集会, 講演会等の開催 (定款第 4 条第 1 号)

### (1) 年会の開催

- 第 92 回 日本薬理学会年会 年会長: 金井 好克 (大阪大学・院医)  
2019 年 3 月 14 日～16 日 大阪国際会議場 (グランキューブ大阪)  
『創造と協奏 ～薬理学の新たな地平を拓く  
～ Concerto on science and innovation toward new horizon of pharmacology』

### (2) 地方部会

- 第 135 回日本薬理学会近畿部会 部会長: 原 英彰 (岐阜薬科大学・薬)  
2019 年 6 月 21 日 じゅうろくプラザ (岐阜市文化産業交流プラザ)  
参加者 191 名, 一般演題 (口演 75)
- 第 140 回日本薬理学会関東部会 部会長: 亀井 淳三 (星薬科大学・薬)  
2019 年 7 月 6 日 星薬科大学新星館および百年記念館 (東京都品川区)  
参加者 274 名, 一般演題 (口演 62)
- 第 70 回 日本薬理学会北部会 部会長: 南 雅文 (北海道大学・院薬)  
2019 年 9 月 20 日 北海道大学薬学部 (北海道札幌市)  
参加者 136 名, 一般演題 (口演 54)
- 第 141 回日本薬理学会関東部会 部会長: 杉山 篤 (東邦大学・医)  
誌上開催, 一般演題 (51 題)
- 第 72 回日本薬理学会西南部会 部会長: 山本 秀幸 (琉球大学・院医)  
2019 年 11 月 16 日 沖縄県市町村自治会館 (沖縄県那覇市)  
参加者 151 名, 一般演題 (口演 37, ポスター 30)
- 第 136 回日本薬理学会近畿部会 部会長: 荻田喜代一 (摂南大学・薬)  
2019 年 11 月 23 日 摂南大学枚方キャンパス (大阪府枚方市)  
参加者 217 名, 一般演題 (口演 60)

### (3) 公開講座の開催

- ・公開講座 (第 92 回年会) 2019 年 3 月 16 日 大阪国際会議場 12 階特別会議室, 参加者 73 名  
『生活習慣病とくすり』 演者: 安西 尚彦 (千葉大学・院医), 西山 成 (香川大学・医)
- ・公開講座 (第 141 回関東部会) 台風接近のため中止  
『東京オリパラで問題となる感染症ー知っておかなければいけない基礎知識ー』
- ・公開講座 (第 72 回西南部会) 2019 年 11 月 17 日 沖縄県市町村自治会館 (沖縄県那覇市)  
『なかなか聞けない大事な話～排尿の悩みの解決法～』 責任者: 山本 秀幸 (琉球大学・院医), 参加者 68 名

### (4) 次世代薬理学セミナーの開催

- ・次世代薬理学セミナー (第 140 回関東部会) 2019 年 7 月 6 日 星薬科大学  
『細胞ごとに切り込む最先端脳研究』
- ・次世代薬理学セミナー (第 72 回西南部会) 2019 年 11 月 16 日 沖縄県市町村自治会館  
『異分野研究による神経薬理学のパラダイム・シフト』

### (5) 看護薬理学カンファレンスの開催

- ・看護薬理学カンファレンス in 大阪 (第 92 回日本薬理学会年会開催時)  
2019 年 3 月 16 日 大阪国際会議場 (大阪市)  
大会長: 池谷 裕二 (東京大学・院薬)
- ・看護薬理学カンファレンス in 札幌 (第 70 回日本薬理学会北部会開催時)  
2019 年 9 月 21 日 北海道大学医学部臨床大講堂 (北海道札幌市)  
大会長: 吉岡 充弘 (北海道大学・院医)

(6) 他学会等との共催学術集会の開催

- ・日本毒性学会共催シンポジウム 2019年3月14日(第92回年会会期中), 大阪国際会議場  
『神経毒性研究の新展開: 神経障害の発症メカニズムと評価法の先端研究』  
座長: 大野 行弘 (大阪薬科大学・薬), 山田 久陽 (大正製薬株)
- ・日本組織細胞化学会共催シンポジウム 2019年3月14日(第92回年会会期中), 大阪国際会議場  
『薬理学研究に使える形態学的手法の基礎』  
座長: 齋藤 尚亮 (神戸大学・バイオケム研), 小澤 一史 (日本医科大学)
- ・日本医学会連合加盟学会連携フォーラム  
日本リウマチ学会共催シンポジウム 2019年3月15日(第92回年会会期中), 大阪国際会議場  
『免疫薬理学-免疫疾患への革新的な治療法開発と薬理学の新たな役割』  
座長: 石井 優 (大阪大学・院医), 今井由美子 (医薬基盤研)
- ・日本臨床薬理学会共催シンポジウム 2019年3月16日(第92回年会会期中), 大阪国際会議場  
『基礎・臨床研究連携のフロンティア』  
座長: 松本 直樹 (聖マリアンナ医科大学), 木内 祐二 (昭和大学・医)
- ・日本臨床薬理学会共催シンポジウム 2019年12月6日(第40回日本臨床薬理学会学術総会時), 京王プラザホテル  
『臓器間ネットワーク制御: 異種細胞組織構築モデルから病態生理へ』  
オーガナイザー: 安西 尚彦 (千葉大学・院医), 楠原 洋之 (東京大学・院薬)

(7) 内外の関連学術団体との連携及び協力

- ・第22回日韓薬理学合同セミナー 2019年3月16日(第92回年会会期中), 大阪国際会議場
- ・第7回日中薬理学・臨床薬理学シンポジウム 2019年8月4日, 5日, 中国昆明市. 日本から accompanying persons を含む 35名が参加した.  
日本薬理学会提案シンポジウム “Neuropharmacology on Cognitive Function”  
座長: 池谷 裕二 先生 (東京大学薬学部), 演者: 古屋敷智之先生 (神戸大学・医)  
演者: 野村 洋 先生 (北海道大学・薬)
- 日本臨床薬理学会提案シンポジウム “Recent trend in pharmacogenomics”  
座長: 古田 隆久 先生 (浜松医科大学), 演者: 蒔田 泰誠 先生 (理化学研究所)  
演者: 古郡 規雄 先生 (獨協医科大学・医)
- ・ASCEPT 年会(2019年11月25日~29日, Queenstown, New Zealand)に講師として池谷 裕二教授(東京大学・薬)を派遣した。

2. 学会誌等刊行物の刊行 (定款第4条第2号)

(1) Journal of Pharmacological Sciences の刊行

発行巻号	139巻1~4号, 140巻1~4号, 141巻1~4号	掲載頁数	(篇数)
① Review		55 頁	( 8)
② Full Paper		721 頁	( 97)
③ Short Communication		111 頁	( 27)
	合計	887 頁	(132)

(2) 日本薬理学雑誌 (くすりとかからだ/ファーマコロジー) の刊行

発行巻号 (部数) 153巻1号 (3,850部), 153巻2号 (3,900部), 153巻3号 (3,800部),  
153巻4号 (3,000部), 153巻5号 (3,500部), 153巻6号 (3,350部),  
154巻1号 (3,400部), 154巻2号 (3,450部), 154巻3号 (3,450部),  
154巻4号 (3,550部), 154巻5号 (3,700部), 154巻6号 (3,800部)

	掲載頁数	(篇数)
① 特集序文	16 頁	(15)
② 特集および総説	395 頁	(70)
③ 実験技術	0 頁	( 0)
④ 創薬シリーズ	88 頁	(14)
⑤ 新薬紹介総説	97 頁	(10)
⑥ キーワード解説	0 頁	( 0)
⑦ 最近の話題	10 頁	(10)
⑧ サイエンス/リレーエッセイ	10 頁	(10)
⑨ 学会便り/研究室訪問	11 頁	(11)
⑩ アゴラ	24 頁	(12)
⑪ 広告	82 頁	
⑫ 綴込み, 目次等上記以外の頁	175 頁	
	合計	908 頁 (152)

3. 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第4条第3号）

(1) 第12回日本薬理学会江橋節郎賞授賞

石井 優（大阪大学大学院医学系研究科・教授）

第13回日本薬理学会江橋節郎賞決定

尾藤 晴彦（東京大学大学院医学系研究科・教授）

(2) 第34回日本薬理学会学術奨励賞授賞（所属等の標記は授賞時）

村松里衣子（国立精神・神経医療研究センター 神経研究所・部長）

『脳神経回路の傷害と修復を司る生体システムの解明』

山下 直也（順天堂大学医学部 薬理学講座・助教）

『軸索輸送を介した神経細胞内情報伝搬・その破綻による神経変性疾患発症の分子機構』

第35回日本薬理学会学術奨励賞決定

北岡 志保（神戸大学 大学院医学研究科・講師）

『精神・神経変性疾患の病態形成に関与する脳内炎症および疾患モデル細胞を用いた創薬に関する研究』

出山 諭司（金沢大学 医薬保健研究域薬学系 薬理学研究室・助教）

『レゾルビン類の抗うつ作用の機序解明と創薬応用に向けた薬理学的研究』

中村 達朗（東京大学 大学院農学生命科学研究科・特任助教）

『食物アレルギーにおける PGD<sub>2</sub> の役割解明と治療，診断への応用』

(3) 第24回 Journal of Pharmacological Sciences 優秀論文賞決定（掲載順）

Characterization and comparison of sodium-glucose cotransporter 2 inhibitors in pharmacokinetics, pharmacodynamics, and pharmacologic effects

Atsuo Tahara, Toshiyuki Takasu, Masanori Yokono, Masakazu Imamura, Eiji Kurosaki

Drug Discovery Research, Astellas Pharma Inc., Ibaraki, Japan

Vol. 130, No. 3 pp. 159-169 (2016)

Rosmarinic acid inhibits inflammation and angiogenesis of hepatocellular carcinoma by suppression of NF- $\kappa$ B signaling in H22 tumor-bearing mice

Wen Cao, Chao Hu, Lingling Wu, Liba Xu, Weizhe Jiang

Vol. 132, No. 2 pp. 131-137 (2016)

(4) 第92回年会優秀発表賞（五十音順・14名）

相本 恵美（東邦大学・薬・薬物治療）

大庭 卓也（岐阜薬科大学・薬・薬効解析）

高 尚澤（岡山大学・院医歯薬総合・薬理）

古賀 啓祐（九州大学・院薬・ライフイノベーション）

小島 寛人（東京大学・院薬・薬品作用）

小柳 円花（京都大学・病院・薬剤部）

清水 翔吾（高知大学・医・薬理）

高橋恵理矢（筑波大学・国際統合睡眠医科学）

Palikhe Sailesh（富山大学・院医薬・分子医科薬理学）

松澤 拓郎（東北大学・院医・機能薬理）

松本浩太郎（大阪大学・院薬・臨床薬効解析学）

道永昌太郎（大阪大谷大学・薬・薬理）

三原 大輝（東京大学・院農・獣医薬理）

宮部 淳二（大阪大学・院医・生体システム薬理）

(5) 2019年度 JPS 優秀査読者賞

・Juei-Tang Cheng (Chang Jung Christian University)

・Yuichi Hattori (University of Toyama)

・Katsuya Hirano (Kagawa University)

・Tsuayoshi Shuto (Kumamoto University)

・Kazuhiro Takuma (Osaka University)

4. 薬理学に関する研究及び調査（定款第4条第4号）

- ・薬理学エデュケーターが薬理学実習や薬理学講義のテキストを共有するためのシステム及びルールの構築を検討した。

5. 内外の関連学術団体との連携及び協力（定款第4条第5号）

- (1) 学術集会の共催および連携 上記1.の(6), (7)を参照
- (2) 学術集会の協賛・後援 (平成31年総会から令和2年総会前日まで)

後 援

1) 第9回アジア-オセアニア生理学会連合大会「FAOPS2019」	平成31年3月28日～3月31日
2) 第14回日本分子イメージング学会総会・学術集会	令和1年5月23日,24日
3) 日本ケミカルバイオロジー学会第14回年会	6月10日～12日
4) 第4回日本臨床薬理学会九州・沖縄地方会	7月6日
5) 医療薬学フォーラム2019第27回クリニカルファーマシーシンポジウム	7月13日,14日
6) 生体機能と創薬シンポジウム2019	8月29日,30日
7) 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2019	8月31日
8) 第67回脳の医学・生物学研究会	8月31日
9) 創薬薬理フォーラム第27回シンポジウム	9月13日
10) 第21回応用薬理シンポジウム2018	9月20日,21日
11) 第6回アジア神経精神薬理学会大会(AsCNP2019)/第49回日本神経精神薬理学会(JSNP2019)/第29回日本臨床神経精神薬理学会(JSCNP2019)	10月11日～13日
12) The 9th International DAMPs & Alarmins Symposium: iDEAs (第9回国際DAMPsとAlarminsシンポジウム)	11月6日～8日
13) 第4回黒潮カンファレンス	11月15日
14) 第11回トランスポーター研究会九州部会	11月23日
15) 第9回ポリフェノールと健康国際会議(ICPH2019)	11月28日～12月1日
16) 第29回日本循環薬理学会・第55回高血圧関連疾患モデル学会合同学会	11月29日,30日
17) 第40回日本臨床薬理学会学術総会	12月4日～6日
18) 第7回国際フードファクター会議(ICoFF2019), 第12回国際機能食品学会(ISNFF2019)	12月1日～5日
19) 日本薬物動態学会第34回年会	12月9日～12日
20) 第10回武田科学振興財団薬科学シンポジウム	令和2年1月24日,25日
21) 第68回脳の医学・生物学研究会	2月1日
22) 第1回がん治療関連心血管疾患ワークショップ	2月11日
23) 第29回神経行動薬理若手研究者の集い	3月15日

協 賛

1) 第26回HAB研究機構学術年会	令和1年6月20日,21日
2) 第23回活性アミンに関するワークショップ	8月24日
3) 第6回国際亜鉛生物学会学術集会(ISZB-2019)	9月9日～13日
4) 第4回D-アミノ酸国際学会(The 4th International Conference of D-Amino Acid Research(IDAR2019))	9月10日～13日
5) 第28回バイオイメージング学会学術集会/第6回国際バイオイメージングプログラム	9月21～23日
6) CBI学会2019年大会	10月22日～24日
7) Symposium:Novel Pain Therapeutics:From Basic Research to Clinical Translation and Rehabilitation	10月23日～25日

6. 会議等の開催状況（平成31年総会から令和2年総会前まで）

総 会	平成31年度 通常総会	平成31年3月14日	(大阪)
学術評議員会	平成31年度	平成31年3月14日	(大阪)
理 事 会	令和1年度 第3回 第4回	令和1年7月5日 12月3日	(東京) (東京)
(拡大)常務理事会	令和2年度 第1回 第2回	令和2年2月 3月15日	(書面決議) (横浜)
	令和1年度 第2回 第3回	7月5日 12月3日	(東京) (東京)
	令和2年度 第1回	令和2年3月15日	(横浜)
	総務委員会	令和1年度 第1回 (メール会議)	令和1年11月11日
財務委員会	令和1年度 第1回 予算案検討ワーキング (メール会議)	令和1年11月26日 11月26日	(東京) (東京)
	会 計 監 査	令和2年1月10日 24日, 27日	(東京) (東京)
	監 事 監 査	2月14日	(東京)
	編集委員会	平成31年度 第1回	平成31年3月14日
研究推進委員会	平成31年度 第1回	平成31年3月14日	(大阪)
	令和1年度 第2回	令和1年10月26日	(東京)
広報委員会	平成31年度 第1回	平成31年3月16日	(大阪)
企画教育委員会	令和1年度 第2回	令和1年9月2日	(東京)
	令和2年度 第1回	令和2年1月27日	(東京)
次世代の会	平成31年度 第1回	平成31年3月15日	(大阪)
賞等選考委員会	令和1年度 第1回	令和1年10月30日	(東京)
年会学術企画委員会	平成31年度 第1回	平成31年3月14日	(大阪)
	令和1年度 第2回	令和1年7月20日	(東京)
江橋賞選考委員会	令和1年度 第1回	令和1年11月8日	(東京)
国際対応委員会	平成31年度 第1回	平成31年3月15日	(大阪)
利益相反(COI)委員会	令和1年度 第1回	令和1年11月11日	(東京)

7. 会員状況（令和1年12月31日現在）

会員数および異動状況（下段は前年度との差）

代 議 員 (正会員に含む)	名誉会員	永年会員	正 会 員		総 数
			学術評議員	一般会員	
137	120	97	1,261	2,670	4,148
-3	±0	+7	+4	-161	-150

新入会者数：423名，退会者数：573名（逝去者，会費未納除籍者含む）

令和1年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

## II. 令和1年度決算報告

### 独立監査人の監査報告書

令和2年2月14日

公益社団法人 日本薬理学会

理事長 吉岡 充弘 殿

中村公認会計士事務所

公認会計士 中村 友理香 ㊞

#### <財務諸表監査>

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に準じ、公益社団法人日本薬理学会の平成31年1月1日から令和1年12月31日までの令和1年度の貸借対照表及び損益計算書(公益認定等ガイドラインI-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。)並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、正味財産増減計算書内訳表(以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。)について監査を行った。

#### 財務諸表に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益(正味財産増減)の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。



#### <財産目録に対する意見>

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に準じ、公益社団法人日本薬理学会の令和1年12月31日現在の令和1年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

#### 財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

#### 監査人の責任

私の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

#### 財産目録に対する監査意見

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

#### 利害関係

公益社団法人日本薬理学会と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

## 監 査 報 告 書

公益社団法人日本薬理学会

理事長 吉岡 充弘 殿

令和2年2月14日

公益社団法人日本薬理学会

監事 伊藤 芳久 ㊞

監事 服部 裕一 ㊞

私たちは、平成31年1月1日から令和1年12月31日までの会計年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

#### 1 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて、財務諸表並びに収支計算書の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

#### 2 監査意見

- (1) 貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録及び収支計算書は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容は、真実であると認める。
- (3) 理事の業務執行に関する不整の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な過失はないと認める。

## 貸借対照表

令和1年12月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
現 金	686,920	807,239	△ 120,319
預 貯 金	75,453,961	68,338,270	7,115,691
未収入金	15,555,488	17,149,307	△ 1,593,819
前 払 金	4,066,400	6,281,820	△ 2,215,420
貯 蔵 品	4,355	3,523	832
流動資産合計	95,767,124	92,580,159	3,186,965
<b>2. 固定資産</b>			
(1) 特定資産			
薬理学基金	50,000,000	50,000,000	0
国際基金	1,632,338	1,752,338	△ 120,000
振興基金			
学術講演基金	14,117,149	18,937,457	△ 4,820,308
刊行基金	15,782,824	15,782,824	0
褒賞基金	12,004,589	12,977,637	△ 973,048
年会運営資産	970,000	0	970,000
公開講座開催資産	250,000	0	250,000
国際情報発信強化資産	2,300,000	1,743,444	556,556
百周年記念積立資産	1,000,000	0	1,000,000
特定資産合計	98,056,900	101,193,700	△ 3,136,800
(2) その他固定資産			
ソフトウェア	5,063,954	6,124,680	△ 1,060,726
電話加入権	2	2	0
保 証 金	1,572,000	1,572,000	0
投資有価証券	0	7,400	△ 7,400
その他固定資産合計	6,635,956	7,704,082	△ 1,068,126
固定資産合計	104,692,856	108,897,782	△ 4,204,926
資 産 合 計	200,459,980	201,477,941	△ 1,017,961
<b>II 負債の部</b>			
<b>1. 流動負債</b>			
前 受 金	8,588,000	9,304,000	△ 716,000
未 払 金	8,295,952	11,105,589	△ 2,809,637
預 り 金	364,583	467,702	△ 103,119
流動負債合計	17,248,535	20,877,291	△ 3,628,756
<b>2. 固定負債</b>			
固定負債合計	0	0	0
負 債 合 計	17,248,535	20,877,291	△ 3,628,756
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>1. 指定正味財産</b>			
受取補助金	2,300,000	1,743,444	556,556
受取寄付金	1,220,000	0	1,220,000
指定正味財産合計	3,520,000	1,743,444	1,776,556
(うち特定資産への充当額)	(3,520,000)	(1,743,444)	(1,776,556)
<b>2. 一般正味財産</b>	179,691,445	178,857,206	834,239
(うち特定資産への充当額)	(94,536,900)	(99,450,256)	(△4,913,356)
正味財産合計	183,211,445	180,600,650	2,610,795
負債及び正味財産合計	200,459,980	201,477,941	△ 1,017,961

## 正味財産増減計算書

平成31年1月1日から令和1年12月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益	18,234	45,634	△ 27,400
薬理学基金受取利息	12,600	42,000	△ 29,400
国際基金・振興基金受取利息	5,634	3,634	2,000
② 受取会費	44,941,000	45,960,500	△ 1,019,500
一般会員会費	17,733,000	18,782,500	△ 1,049,500
学術評議員会費	18,148,000	18,568,000	△ 420,000
賛助会員会費	9,060,000	8,610,000	450,000
③ 事業収益	68,799,038	178,684,660	△ 109,885,622
学術集会費収益	44,978,940	153,867,357	△ 108,888,417
購読料収益	692,600	736,370	△ 43,770
論文掲載料収益	17,672,960	17,232,840	440,120
論文別刷料収益	1,385,362	2,487,670	△ 1,102,308
広告掲載料収益	3,633,800	4,339,440	△ 705,640
予稿集売上等収益	435,376	20,983	414,393
④ 薬理学エデュケーター申請収益	6,060,000	0	6,060,000
申請料収益	6,060,000	0	6,060,000
⑤ 受取補助金等	7,763,444	13,122,788	△ 5,359,344
学術集会補助金	1,020,000	5,394,330	△ 4,374,330
指定正味財産からの振替額	6,743,444	7,728,458	△ 985,014
⑥ 受取寄付金	13,875,000	28,824,667	△ 14,949,667
学術集会賛助金	13,875,000	27,244,667	△ 13,369,667
指定正味財産からの振替額	0	1,580,000	△ 1,580,000
⑥ 雑収益	444,631	8,501	436,130
受取利息	449	8,474	△ 8,025
雑収益	444,182	27	444,155
経常収益計	141,901,347	266,646,750	△ 124,745,403
(2) 経常費用			
① 事業費	128,001,563	252,260,729	△ 124,259,166
給与手当	1,985,290	6,520,329	△ 4,535,039
法定福利費	371,562	917,534	△ 545,972
事務所借料	1,549,149	1,421,563	127,586
会場費	28,106,174	53,078,924	△ 24,972,750
旅費・通信交通費	4,045,182	13,593,625	△ 9,548,443
印刷費	6,495,605	19,367,858	△ 12,872,253
会議費	4,358,989	12,284,630	△ 7,925,641
謝金・その他	8,773,230	42,410,260	△ 33,637,030
懇親会費	6,427,073	7,373,233	△ 946,160
編集・刊行費	32,851,968	33,349,200	△ 497,232
国際情報発信強化費	6,743,444	7,728,458	△ 985,014
学術事業協力費	552,920	10,065,100	△ 9,512,180
副賞	973,048	948,600	24,448
消耗品費	614,105	665,604	△ 51,499
業務委託費	22,681,598	41,041,391	△ 18,359,793
租税公課	487,900	881,700	△ 393,800
減価償却費	984,326	612,720	371,606

科 目	当年度	前年度	増 減
② 管理費	13,065,545	17,735,402	△ 4,669,857
給与手当	711,935	2,492,527	△ 1,780,592
法定福利費	140,939	393,232	△ 252,293
事務所借料	516,387	609,701	△ 93,314
中退共掛金	0	45,000	△ 45,000
臨時雇賃金	0	195,935	△ 195,935
旅費・通信交通費	2,389,905	4,739,388	△ 2,349,483
印刷費	117,558	115,020	2,538
会議費	376,021	618,486	△ 242,465
リース料	191,808	191,808	0
消耗品費	1,059,648	973,253	86,395
支払手数料	1,847,886	1,488,143	359,743
慶弔費	322,906	291,356	31,550
業務委託費	4,492,451	4,290,069	202,382
租税公課	24,200	5,800	18,400
減価償却費	626,400	652,650	△ 26,250
選挙費	0	264,167	△ 264,167
為替差損	0	242,367	△ 242,367
雑費	247,501	126,500	121,001
經常費用計	141,067,108	269,996,131	△ 128,929,023
評価損益等調整前当期經常増減額	834,239	△ 3,349,381	4,183,620
基本財産評価損益等			
特定資産評価損益等			
投資有価証券評価損益等			
評価損益等計	0	0	0
当期經常増減額	834,239	△ 3,349,381	4,183,620
2. 經常外増減の部			
(1) 經常外収益			
經常外収益計	0	0	0
(2) 經常外費用			
經常外費用計	0	0	0
当期經常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	834,239	△ 3,349,381	4,183,620
一般正味財産期首残高	178,857,206	182,206,587	△ 3,349,381
一般正味財産期末残高	179,691,445	178,857,206	834,239
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金	7,300,000	8,600,000	△ 1,300,000
受取寄付金	1,220,000	0	1,220,000
一般正味財産への振替額	△ 6,743,444	△ 9,308,458	2,565,014
当期指定正味財産増減額	1,776,556	△ 708,458	2,485,014
指定正味財産期首残高	1,743,444	2,451,902	△ 708,458
指定正味財産期末残高	3,520,000	1,743,444	1,776,556
III 正味財産期末残高	183,211,445	180,600,650	2,610,795

正味財産増減計算書内訳表

平成31年1月1日から令和1年12月31日まで

(単位:円)

	公益目的事業会計					共通	小計	収益事業等会計 認定	法人会計	内部取引等 消去	合計
	公1 学術集会等開催	公2 刊行	公3 褒賞	公4 連携							
<b>I 一般正味財産増減の部</b>											
1. 経常増減の部											
(1) 経常収益											
特定資産運用益						11,934		6,300			18,234
薬理学基金受取利息					6,300	6,300		6,300			12,600
国際基金・振興基金受取利息					5,634	5,634					5,634
受取会費						22,470,500		22,470,500			44,941,000
一般会員会費					8,866,500	8,866,500		8,866,500			17,733,000
学術評議員会費					9,074,000	9,074,000		9,074,000			18,148,000
賛助会員会費					4,530,000	4,530,000		4,530,000			9,060,000
事業収益						68,942,038				△ 143,000	68,799,038
学術集会会費収益	45,121,940					45,121,940				△ 143,000	44,978,940
購読料収益		692,600				692,600					692,600
論文掲載料収益		17,672,960				17,672,960					17,672,960
論文印刷料収益		1,385,362				1,385,362					1,385,362
広告掲載料収益		3,633,800				3,633,800					3,633,800
予稿集売上等収益	435,376					435,376					435,376
薬理学エデュケーター申請収益							6,060,000				6,060,000
申請料収益							6,060,000				6,060,000
受取補助金等						7,763,444					7,763,444
学術集会補助金	1,020,000					1,020,000					1,020,000
指定正味財産からの振替額		6,743,444				6,743,444					6,743,444
受取寄付金						13,875,000		0			13,875,000
学術集会賛助金	13,875,000					13,875,000					13,875,000
指定正味財産からの振替額						0					0
雑収益						438,062		6,569		0	444,631
受取利息	62					62		387			449
雑収益	8,000			430,000		438,000		6,182			444,182
<b>経常収益計</b>	<b>60,460,378</b>	<b>30,128,166</b>	<b>0</b>	<b>430,000</b>	<b>22,482,434</b>	<b>113,500,978</b>	<b>6,060,000</b>	<b>22,483,369</b>	<b>△ 143,000</b>	<b>△ 143,000</b>	<b>141,901,347</b>
(2) 経常費用											
事業費											
給与手当	1,543,080	249,853	134,861	57,496		1,985,290					1,985,290
法定福利費	281,875	51,250	25,625	12,812		371,562					371,562
事務所借料	929,491	206,553	206,553	103,276		1,445,873	103,276				1,549,149
会場費	28,106,174					28,106,174					28,106,174
旅費・通信交通費	3,345,274	8,088	351,080	120,000		3,824,442	220,740				4,045,182
印刷費	6,353,531					6,353,531	142,074				6,495,605
会議費	4,109,962	16,200	144,199	17,820		4,288,181	70,808				4,358,989
謝金・その他	8,294,916		556,850	26,568		8,878,334	7,896		△ 113,000		8,773,230
懇親会費	6,427,073					6,427,073					6,427,073
編集・刊行費		32,851,968				32,851,968					32,851,968
国際情報発信強化費		6,743,444				6,743,444					6,743,444
学術事業協力費				552,920		552,920					552,920
副賞			973,048			973,048					973,048
消耗品費		614,105				614,105					614,105
業務委託費	18,065,593	2,799,245	908,380	454,190		22,227,408	454,190				22,681,598
租税公課	361,740	126,160				487,900					487,900
減価償却費	920,160					920,160	64,166				984,326
事業費計	78,738,869	43,666,866	3,300,596	1,345,082	0	127,051,413	1,063,150	0	△ 113,000	△ 113,000	128,001,563
管理費											
給与手当								711,935			711,935
法定福利費								140,939			140,939
事務所借料								516,387			516,387
旅費・通信交通費								2,389,905			2,389,905
印刷費								117,558			117,558
会議費								376,021			376,021
リース料								191,808			191,808
消耗品費								1,059,648			1,059,648
支払手数料								1,847,886			1,847,886
慶弔費								352,906		△ 30,000	322,906
業務委託費								4,492,451			4,492,451
租税公課								24,200			24,200
減価償却費								626,400			626,400
雑費								247,501			247,501
管理費計								13,095,545	△ 30,000		13,065,545
<b>経常費用計</b>	<b>78,738,869</b>	<b>43,666,866</b>	<b>3,300,596</b>	<b>1,345,082</b>	<b>0</b>	<b>127,051,413</b>	<b>1,063,150</b>	<b>13,095,545</b>	<b>△ 143,000</b>	<b>△ 143,000</b>	<b>141,067,108</b>
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 18,278,491	△ 13,538,700	△ 3,300,596	△ 915,082	22,482,434	△ 13,550,435	4,996,850	9,387,824	0	0	834,239
基本財産評価損益等											
特定資産評価損益等											
投資有価証券評価損益等											
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 18,278,491	△ 13,538,700	△ 3,300,596	△ 915,082	22,482,434	△ 13,550,435	4,996,850	9,387,824	0	0	834,239
2. 経常外増減の部											
(1) 経常外収益											
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用											
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 18,278,491	△ 13,538,700	△ 3,300,596	△ 915,082	22,482,434	△ 13,550,435	4,996,850	9,387,824	0	0	834,239
他会計振替額	0	0	0	0	2,444,166	2,444,166	△ 2,444,166	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 18,278,491	△ 13,538,700	△ 3,300,596	△ 915,082	24,926,600	△ 11,106,269	2,552,684	9,387,824	0	0	834,239
一般正味財産期首残高						86,601,661	0	92,255,545	0	0	178,857,206
一般正味財産期末残高						75,495,392	2,552,684	101,643,369	0	0	179,691,445
<b>II 指定正味財産増減の部</b>											
受取補助金	0	7,300,000	0	0	0	7,300,000	0	0	0	0	7,300,000
受取寄付金	1,220,000	0	0	0	0	1,220,000	0	0	0	0	1,220,000
一般正味財産への振替額	0	△ 6,743,444	0	0	0	△ 6,743,444	0	0	0	0	△ 6,743,444
当期指定正味財産増減額	1,220,000	556,556	0	0	0	1,776,556	0	0	0	0	1,776,556
指定正味財産期首残高	0	1,743,444	0	0	0	1,743,444	0	0	0	0	1,743,444
指定正味財産期末残高	1,220,000	2,300,000	0	0	0	3,520,000	0	0	0	0	3,520,000
<b>III 正味財産期末残高</b>						<b>79,015,392</b>	<b>2,552,684</b>	<b>101,643,369</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>183,211,445</b>

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品は1冊を1円として評価している。

#### (2) 固定資産の減価償却の方法

定額法による。

#### (3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 表示方法の変更

新たに薬理学エデュケーター事業を開始したことに伴い、当該事業を正味財産増減計算書内訳表において、収益事業等会計の区分に計上している。

### 3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は次のとおりである。

特定資産

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
薬理学基金	50,000,000	0	0	50,000,000
国際基金	1,752,338	0	120,000	1,632,338
振興基金				
学術講演基金	18,937,457	0	4,820,308	14,117,149
刊行基金	15,782,824	0	0	15,782,824
褒賞基金	12,977,637	0	973,048	12,004,589
年会開催資産	0	970,000	0	970,000
公開講座開催資産	0	250,000	0	250,000
国際情報発信強化資産	1,743,444	7,300,000	6,743,444	2,300,000
百周年記念積立資産	0	1,000,000	0	1,000,000
合 計	101,193,700	9,520,000	12,656,800	98,056,900

### 4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は次のとおりである。

特定資産

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味 財産からの充 当額)	(うち一般正味 財産からの充 当額)	(うち負債に 対応する額)
薬理学基金	50,000,000	-	(50,000,000)	-
国際基金	1,632,338	-	(1,632,338)	-
振興基金				
学術講演基金	14,117,149	-	(14,117,149)	-
刊行基金	15,782,824	-	(15,782,824)	-
褒賞基金	12,004,589	-	(12,004,589)	-
年会開催資産	970,000	(970,000)	-	-
公開講座開催資産	250,000	(250,000)	-	-
国際情報発信強化資産	2,300,000	(2,300,000)	-	-
百周年記念積立資産	1,000,000	-	(1,000,000)	-
合 計	98,056,900	(3,520,000)	(94,536,900)	( - )

### 5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

種類及び銘柄	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
ソフトウェア	8,282,800	3,218,846	5,063,954
合 計	8,282,800	3,218,846	5,063,954

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
国際情報発信強化補助金	日本学術振興会	1,743,444	7,300,000	6,743,444	2,300,000	指定正味財産
第92回日本薬理学会年会補助金	公益財団法人内藤記念科学振興財団	0	600,000	600,000	0	
第92回日本薬理学会年会補助金	一般社団法人日本医学会連合	0	300,000	300,000	0	
コンベンション開催事業助成金(第135回近畿部会)	公益財団法人岐阜観光コンベンション協会	0	70,000	70,000	0	
市民公開講座助成金(第72回西南部会)	公益財団法人沖縄県医科学研究財団	0	50,000	50,000	0	
合計		1,743,444	8,320,000	7,763,444	2,300,000	

7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
目的達成による指定解除(受取補助金)	6,743,444

8. 資産除却債務関係

事務局の不動産賃貸借契約に基づき、オフィス退去時における現状回復に係る債務を有しているが、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、当面事務局を移転する予定もないことから、資産除却債務を合理的に見積もることができない。そのため、当該債務に見合う資産除却債務を計上していない。

## 附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記 3. に記載のとおりである。

2. 引当金の明細

該当なし。

## 財 産 目 録

令和1年12月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額		
(流動資産)	現金	手元保管	運転資金として	686,920	
	預貯金	普通預金・三菱UFJ銀行本郷支店	運転資金として	25,738,135	
		普通預金・みずほ銀行本郷支店	運転資金として	7,721,197	
		定期預金・三菱UFJ銀行本郷支店	運転資金として	40,000	
		定期預金・みずほ銀行本郷支店	運転資金として	10,000,000	
		ゆうちょ銀行定期貯金	運転資金として	3,000,000	
		ゆうちょ銀行通常貯金	運転資金として	14,038,010	
		ゆうちょ銀行振替貯金	運転資金として	14,916,619	
		<b>&lt;現金・預貯金計&gt;</b>			<b>76,140,881</b>
	未収入金	収納代行会社	会費収納代行会社の年度末の残高である	1,049,000	
		一般会員会費 (1名分)	規則で定められた会員の要支払会費額である	3,000	
		学術評議員会費 (61名分)	同上	1,215,000	
		賛助会員会費	本会の事業を支援する法人の会費である	750,000	
		購読料	刊行事業の未収分である	668,400	
		掲載料	同上	10,361,000	
		論文別刷料	同上	912,888	
		広告掲載料	同上	572,000	
		バックナンバー売上金	既刊雑誌の売上未収分である	24,200	
		<b>&lt;未収入金計&gt;</b>			<b>15,555,488</b>
	前払金	第93回年会	年会開催事業への学会交付金である	1,900,000	
第93回年会会場予約金		年会会場の予約金である	2,154,400		
委員会会場予約金		委員会の会場予約金である	12,000		
<b>&lt;前払金計&gt;</b>			<b>4,066,400</b>		
貯蔵品	既刊誌 (2018, 2019年)	既刊雑誌の在庫数である	4,355		
<b>&lt;貯蔵品計&gt;</b>			<b>4,355</b>		
<b>流動資産合計</b>			<b>95,767,124</b>		
(固定資産) 特定資産	薬理学基金	定期預金・三菱UFJ銀行本郷支店	運用益を公益目的事業と管理目的の財源として 使用している(うち公益目的保有財産50%)	30,000,000	
		ゆうちょ銀行通常貯金		20,000,000	
	<b>&lt;薬理学基金計&gt;</b>			<b>50,000,000</b>	
	国際基金	ゆうちょ銀行通常貯金	海外の学会との連携事業の原資である(公益目的 保有財産)	1,632,338	
	<b>&lt;国際基金計&gt;</b>			<b>1,632,338</b>	
	振興基金	学術講演基金	ゆうちょ銀行通常貯金	科研費補助金を受けないで開催する市民公開 講座、及び次世代薬理学セミナー開催事業等 の原資である(公益目的保有財産)	14,117,149
			<b>&lt;学術講演基金計&gt;</b>		
	刊行基金	ゆうちょ銀行通常貯金	刊行事業、薬理学に関する研究及び調査事業 の原資である(公益目的保有財産)	15,782,824	
	<b>&lt;刊行基金計&gt;</b>			<b>15,782,824</b>	
	褒賞基金	ゆうちょ銀行通常貯金	研究業績を表彰する事業の原資である(公益目的 保有財産)	12,004,589	
<b>&lt;褒賞基金計&gt;</b>			<b>12,004,589</b>		



	年会開催資産	ゆうちょ銀行通常貯金	年会の寄付金である	970,000	
			<年会開催資産>	<b>970,000</b>	
	公開講座開催資産	ゆうちょ銀行通常貯金	公開講座の寄付金である	250,000	
			<公開講座開催資産>	<b>250,000</b>	
	国際情報発信強化資産	三菱UFJ銀行・定期預金	科研費の補助金である	2,300,000	
			<国際情報発信強化資産計>	<b>2,300,000</b>	
	百周年記念積立資産	三菱UFJ銀行・定期預金	百周年記念事業の積立金である	1,000,000	
			<百周年記念積立資産>	<b>1,000,000</b>	
			<特定資産合計>	<b>98,056,900</b>	
そ の 他 固 定 資 産	ソフトウェア	会員管理システム	公益目的事業及び管理目的に使用している	5,063,954	
			うち公益目的事業に使用	3,067,920	
			うちその他の事業に使用	485,834	
			うち管理目的に使用	1,510,200	
	電話加入権	電話回線 2台	公益目的保有財産であり、公益目的事業に使用している	2	
	保証金	㈱学会センタービル	(共用財産)	1,572,000	
			うち公益目的保有財産25%	393,000	
		うち管理目的として使用する財産75%	1,179,000		
			<その他固定資産計>	<b>6,635,956</b>	
<b>固定資産合計</b>				<b>104,692,856</b>	
<b>資産合計</b>				<b>200,459,980</b>	
(流動負債)	前受金	2020, 2021年一般会員会費(5名分)	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する次年度の会費である。	36,000	
		2020年学術評議員会費(2名分)		30,000	
		参加登録費	第93回年会の参加登録費である	8,522,000	
				<前受金計>	<b>8,588,000</b>
	未払金	福田商店代理店委託費	学会誌の広告代理店委託費である		114,400
		業務委託費等	刊行事業の業務委託費及び会計監査費用等である		6,793,034
		消耗品費等	刊行事業の消耗品費等である		1,388,518
			<未払金計>	<b>8,295,952</b>	
預り金	学術集会謝金源泉所得税	学術集会開催事業の謝金等の源泉所得税である		291,583	
	その他預り金	その他の預り金である		73,000	
			<預り金計>	<b>364,583</b>	
<b>流動負債合計</b>				<b>17,248,535</b>	
(固定負債)	<固定負債合計>			<b>0</b>	
<b>固定負債合計</b>				<b>0</b>	
<b>負債合計</b>				<b>17,248,535</b>	
<b>正味財産</b>				<b>183,211,445</b>	

### Ⅲ. 令和2年度事業計画

第18回国際薬理学・臨床薬理学会議(WCP2018)の成功を受けて、国際連携強化を一つの目標として国際対応委員会を軸に理事会、各委員会が一致協力して、本学会のプレゼンスを高めるための国際化の推進に向けた活動を進めます。また、年会および部会のサスティナブルな運営ならびに活性化に向け、それらの今後の在り方について議論を深めます。さらに、今後の中期的目標として、日本薬理学会創立100周年を迎える2026年に向けて記念事業の企画および準備を進めてまいります。

学会機関誌については、編集委員会ならびに広報委員会を中心に経費の節減を目指すとともに会員サービスの向上に努めます。特に、Journal of Pharmacological Sciences(JPS)の国際誌レベルアップを一層進めてまいります。

財政につきましては、経費削減努力を継続し、その一環として事務局体制を外部委託とし、2020年度以降もこの体制を継続して、将来も安定した学会運営体制の構築を目指します。他学会との協働ならびに連携についても、可能な限り推進し、学会の活性化とともに経費節減を目指します。

次世代の会の活動の推進、薬理学エデュケーター制度の充実、看護薬理学への対応などの検討を行い、女性ならびに若手研究者も含めた学会活動の促進に取り組んでまいります。

本会の更なる発展を目指すため、会員の皆様のご理解と一層のご支援ご協力をお願いいたします。

理事長 吉岡 充弘

#### 1 薬理学研究の進展及び薬理学研究者育成のための学術集会及び講演会等の開催事業（公益目的事業1）

##### (1) 年会の開催

- ・第93回 日本薬理学会年会 年会長：五嶋 良郎（横浜市立大学・院医）  
2020年3月16日～18日 パシフィコ横浜会議センター  
『Bidirectional talk between bench and bedside～薬理学を一つの舞台に～』

##### (2) 地方部会の開催

6回の地方部会を開催する。

- ・第142回 日本薬理学会関東部会 部会長：三枝 禎（日本大学・松戸歯）  
2020年6月6日 山崎製パン総合クリエイションセンター
- ・第137回 日本薬理学会近畿部会 部会長：見尾 光庸（就実大学・薬）  
2020年6月20日 岡山ロイヤルホテル
- ・第71回 日本薬理学会北部会 部会長：若森 実（東北大学・院歯）  
2020年9月4日 東北大学大学院歯学研究科
- ・第143回 日本薬理学会関東部会 部会長：山田 充彦（信州大学・院医）  
2020年10月24日 信州大学医学部
- ・第138回 日本薬理学会近畿部会 部会長：川畑 篤史（近畿大学・薬）  
2020年11月14日 近畿大学東大阪キャンパス
- ・第73回 日本薬理学会西南部会 部会長：甲斐 広文（熊本大学・院生命科学）  
2020年11月21日 熊本大学薬学部

##### (3) 市民公開講座の開催

科学的で正確な薬理学的知識に基づいて、薬物に関する正しい知識を国民に対して広めること及び薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうための啓発活動の一環として年会、地方部会と連動して3回の市民公開講座を開催する予定である。

- ・公開講座（第93回年会） 2020年3月15日 はまぎんホール ヴィアマール  
テーマ：「スポーツとくすりと認知症の予防に向けて」
- ・公開講座（第142回関東部会） 世話人：三枝 禎（日本大学・松戸歯）
- ・公開講座（第143回関東部会） 世話人：山田 充彦（信州大学・院医）

##### (4) 次世代薬理学セミナーの開催

日本の薬理学研究の活性化及び国際プレゼンスの向上のため、意欲と能力のある若手を育成し、学会活動への積極的な参画を促すため、若手研究者による若手研究者を対象の次世代薬理学セミナーを開催する。2020年は部会に合わせて2回の開催を予定している。

##### (5) 薬理学カンファレンスの開催

看護に必要な薬理学知識のより一層の啓蒙活動を行うとともに、これまで薬理学にあまり接点のなかった看護の様々な領域と薬理学との橋渡し・人的交流を目指し、薬理学カンファレンスを開催する。

## 2 薬理学に関する学理及び応用の研究についての知識の普及を目的とし、学会誌等を刊行する事業（公益目的事業2）

(1) Journal of Pharmacological Sciences を全面電子体のオープンアクセス誌として刊行する。

・2020年刊行予定：142巻1～4号，143巻1～4号，144巻1～4号

(2) 日本薬理学雑誌（くすりとかからだ／ファーマコロジカ）の刊行

・2020年刊行予定：155巻1～6号 計6冊（隔月，奇数月発行）

(3) 「医学と医療における日本の薬理学の貢献2020版（仮題）」パンフレットの作成。

## 3 優れた業績をあげた研究者の表彰及び研究の一層の飛躍を期待した研究奨励のために、各賞を設置し、研究者と研究業績を表彰する事業（公益目的事業3）

(1) 江橋節郎賞

日本薬理学会名誉会員故江橋節郎先生の生命科学への貢献を末永く顕彰するため、江橋節郎賞を創設し、薬理学の進歩に貢献した研究者に授与しているが、第14回選考より、選考対象領域を分けて、年毎に募集領域を公告し、推薦を受け付ける。

・第13回江橋節郎賞受賞者の受賞講演は、第93回年会会期中の2020年3月17日に行われる。

尾藤 晴彦（東京大学大学院医学系研究科）

『シナプスと核を結ぶ活動依存的神経可塑性メカニズムの解明と可視化』

・第14回江橋節郎賞は5月末日までに募集を公告し、推薦の締切は8月末日、江橋節郎賞選考委員会の選考を経て理事会で決定する。

(2) 学術奨励賞

薬理学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、将来発展の期待される研究者に学術奨励賞を授与する。

・第35回学術奨励賞受賞者3名の受賞講演は、第93回年会会期中の2020年3月18日に行われる。

北岡 志保（神戸大学 大学院医学研究科・講師）

『精神・神経変性疾患の病態形成に関与する脳内炎症および疾患モデル細胞を用いた創薬に関する研究』

出山 諭司（金沢大学 医薬保健研究域薬学系 薬理学研究室・助教）

『レゾルビン類の抗うつ作用の機序解明と創薬応用に向けた薬理学的研究』

中村 達朗（東京大学 大学院農学生命科学研究科・特任助教）

『食物アレルギーにおけるPGD<sub>2</sub>の役割解明と治療、診断への応用』

・第36回学術奨励賞は5月末日までに募集を公告し、推薦の締切は8月末日、賞等選考委員会の選考を経た3件以内の候補者について理事会が決定する。

(3) JPS 優秀論文賞

過去3年間にJPSに掲載された論文の中で引用回数の多い順に毎年約10編の中から特に優れたものを選出し、その著者にJPS優秀論文賞を授与する。

・第24回JPS優秀論文賞受賞2編の授与式は第93回年会会期中の2020年3月18日に行う。

・第25回JPS優秀論文賞（本賞授賞の趣旨に則り）3編以内を決定する。

(4) 年会優秀発表賞

年会学術集会への優れた発表を促し、学問的情報発信の場としての役割を高めるために第93回年会で一般演題の中から優秀な発表に対して、10～20件の年会優秀発表賞を授与する。

(5) 優秀査読者賞

Journal of Pharmacological Sciences の査読者の質を向上させ、掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的で5名以内にJPS優秀査読者賞を授与する。

## 4 薬理学及びわが国学術文化の進展・発展への寄与を目的とした、内外の関連学術団体との連携及び協力事業（公益目的事業4）

(1) 日本学術会議との連携

日本学術会議協力学術研究団体の一員である本会は、日本学術会議国際対応分科会の活動として国際連携を推進する。

(2) 生物科学学会連合との連携

加盟団体と情報を共有して「生物科学」の健全な発展に協力するために、定例会議に出席する。

### (3) 日本脳科学関連学会連合との連携

加盟団体の一員として、脳科学の発展ならびに普及を通して社会への貢献に協力する。

### (4) 国内の関連学術団体と連携して共催シンポジウム等を開催する。

- ・日本医学会連合加盟学会連携フォーラム 2020年3月16日(第93回年会会期中), パシフィコ横浜  
『脳深部刺激(DBS): 機能的脳外科領域における解剖・生理・薬理学連携と若手研究者育成』  
座長: 櫻井 隆(順天堂大学・医), 岡部 繁男(東京大学・院医)
- ・日本生理学会共催シンポジウム 2020年3月16日(第93回年会会期中), パシフィコ横浜  
『精神疾患メカニズム解明に向けた多角的アプローチ～細胞からヒトまで俯瞰して～』  
座長: 小山 隆太(東京大学・院薬), 宮崎 智之(横浜市立大学・院医)
- ・日本臨床薬理学会共催シンポジウム 2020年3月16日(第93回年会会期中), パシフィコ横浜  
『薬理と臨床薬理とを1つの舞台に』  
座長: 渡邊 裕司(浜松医科大学・医), 吉岡 充弘(北海道大学・院医)
- ・日本実験動物技術者協会共催シンポジウム 2020年3月16日(第93回年会会期中), パシフィコ横浜  
『薬理学研究・実習における動物実験技法の継承にむけて』  
座長: 和田 孝一郎(島根大学・医), 安西 尚彦(千葉大学・院医)
- ・日本臨床疫学会共催シンポジウム 2020年3月17日(第93回年会会期中), パシフィコ横浜  
『大規模医療データベースを活用した臨床疫学研究による医療や薬剤の評価』  
座長: 川上 浩司(京都大学・院医), 浅井 聰(日本大学・医)
- ・看護薬理学カンファレンス2020 in 横浜 2020年3月18日(第93回年会会期中), パシフィコ横浜  
看護薬理学カンファレンス2020 in 熊本 2020年11月21日(第73回西南部会), 熊本大学薬学部キャンパス

### (5) 海外の関連学術団体と連携して共催シンポジウム等を開催する。

- ・中国薬理学会共催シンポジウム(JPS-CNPHARS Joint Session)  
“Current Status of Pharmacological Research in Japan and China”を2020年3月17日(第93回年会会期中)に開催予定であったが、中止。
- ・JPS-ASCEPT Lecture 2020年3月17日(第93回年会会期中), パシフィコ横浜  
“The structural basis of peptide GPCR activation and signalling.”  
ASCEPT 講師: Dr Denise Wootten (Monash 大学・准教授)
- ・ASPET-JPS Lecture  
EB2020(2020年4月4日～8日, サンディエゴ市)に金井好克教授(大阪大学医学部)を派遣する。
- ・APFP 2020は, 2020年5月4日～7日に台北市(台湾)で開催される。

## 5 薬理学エデュケーター認定制度(その他の事業)

優れた薬理学教育者を育成・支援し、薬理学の知識の普及及び研究水準向上への貢献を目的として2019年より薬理学エデュケーター認定制度を開始した。2020年度も経過措置による申請を受け付ける。

## 6 その他

### 1 会 員

- ・2019年度末の会員数は2018年度末の会員数4,298名から減少し, 4,148名となった。

### 2 業務執行体制の整備と強化

- ・代表理事, 業務執行理事, 常置委員会委員長, 年会長, 次世代の会代表による拡大常務理事会を開催し, 様々な課題に取り組み, 理事会の業務執行に協力する。

### 3 社会に向けて

- ・公開講座を開催し, 科学的で正確な薬理学的知識に基づいて, 薬物に関する正しい知識を国民に対して広めること及び薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうための啓発活動を継続する。
- ・倫理委員会規定を制定し, 科学者の行動規範に反する不正行為の防止に取り組んでいる。

### 4 事務局体制について

- ・事務局は, 現在, 外部委託により運営されている。持続可能な事務局体制に向けて引き続き検討を行う。

#### IV. 令和2年度収支予算

#### 令和2年度収支予算 令和2年1月1日から令和2年12月31日まで

(単位:円)

	令和2年度予算額	平成31年度予算額	増 減	備 考
I. 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 特定資産運用益	( 40,000 )	( 40,000 )	( 0 )	
基金運用益	40,000	40,000	0	
② 受取会費	( 44,910,000 )	( 45,491,500 )	( △ 581,500 )	
1 一般会員会費	18,600,000	18,491,500	108,500	
2 学術評議員会費	18,000,000	18,000,000	0	
3 賛助会員会費	8,310,000	9,000,000	△ 690,000	
③ 事業収益	( 66,715,000 )	( 79,800,000 )	( △ 13,085,000 )	
1 学術集会費収益	( 56,745,000 )	( 57,530,000 )	( △ 785,000 )	
参加登録費	22,335,000	21,350,000	985,000	
器械展示料・予稿集広告料	16,890,000	18,940,000	△ 2,050,000	
懇親会費	5,520,000	5,240,000	280,000	
ランチョンセミナー	12,000,000	12,000,000	0	
2 購読料	( 500,000 )	( 720,000 )	( △ 220,000 )	
3 論文掲載料	( 6,470,000 )	( 16,150,000 )	( △ 9,680,000 )	
4 論文別刷料	( 1,000,000 )	( 1,300,000 )	( △ 300,000 )	
5 広告掲載料	( 2,000,000 )	( 4,100,000 )	( △ 2,100,000 )	
④ 受取補助金等	( 11,345,771 )	( 8,950,000 )	( 2,395,771 )	
1 指定正味財産からの振替額	7,395,771	8,000,000	△ 604,229	
2 学術集会補助金	3,950,000	950,000	3,000,000	
⑤ 受取寄付金	( 14,640,000 )	( 15,150,000 )	( △ 1,160,000 )	
1 指定正味財産からの振替額	650,000	0	650,000	
2 学術集会賛助金	13,990,000	15,150,000	△ 1,160,000	
⑥ 雑収益	( 1,503,000 )	( 1,502,000 )	( 1,000 )	
受取利息等	1,503,000	1,502,000	1,000	
<b>経常収益計</b>	<b>139,153,771</b>	<b>150,933,500</b>	<b>△ 12,429,729</b>	
(2) 経常費用				
① 事業費	( 125,438,211 )	( 140,799,677 )	( △ 15,361,466 )	
事務所借料	1,463,880	1,435,643	28,237	
給与手当	0	6,490,874	△ 6,490,874	
法定福利費	0	1,015,000	△ 1,015,000	
会場費	42,194,000	35,160,600	7,033,400	
旅費・通信交通費	5,910,000	4,286,600	1,623,400	
印刷費	9,060,000	11,080,900	△ 2,020,900	
会議費	3,420,000	2,788,400	631,600	
謝金・その他	15,340,000	13,185,500	2,154,500	
懇親会費	5,320,000	5,280,000	40,000	
編集刊行費	11,000,000	31,956,000	△ 20,956,000	
国際情報発信強化費	7,145,771	8,000,000	△ 854,229	
学術事業協力費	550,000	500,000	50,000	
副賞	1,200,000	1,000,000	200,000	
消耗品費	400,000	700,000	△ 300,000	
業務委託費	20,614,400	15,200,000	5,414,400	
減価償却費	920,160	920,160	0	
租税公課	400,000	1,300,000	△ 900,000	
雑 費	500,000	500,000	0	

(単位:円)

	令和2年度予算額	平成31年度予算額	増減	備考
② 管理費	( 15,450,808 )	( 19,234,555 )	( △ 3,783,747 )	
事務所借料	627,000	617,221	9,779	
給料手当	0	2,484,126	△ 2,484,126	
法定福利費	0	385,000	△ 385,000	
中退共掛金	0	60,000	△ 60,000	
臨時雇賃金	500,000	500,000	0	
旅費・通信交通費	3,500,000	3,500,000	0	
印刷費	300,000	300,000	0	
会議費	700,000	700,000	0	
リース料	191,808	191,808	0	
消耗品費	1,000,000	1,000,000	0	
支払手数料	1,600,000	1,250,000	350,000	
慶弔費	500,000	400,000	100,000	
業務委託費	5,185,600	7,000,000	△ 1,814,400	
租税公課	20,000	20,000	0	
減価償却費	626,400	626,400	0	
選挙費	500,000	0	500,000	
雑費	200,000	200,000	0	
<b>経常費用計</b>	<b>140,889,019</b>	<b>160,034,232</b>	<b>△ 19,145,213</b>	
<b>評価損益等調整前当期経常増減額</b>	<b>△ 1,735,248</b>	<b>△ 9,100,732</b>	<b>7,365,484</b>	
基本財産評価損益等				
特定資産評価損益等				
投資有価証券評価損益等				
<b>評価損益等計</b>				
当期経常増減額	△ 1,735,248	△ 9,100,732	7,365,484	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 1,735,248	△ 9,100,732	7,365,484	
一般正味財産期首残高	147,251,111	156,351,843	△ 9,100,732	
<b>一般正味財産期末残高</b>	<b>145,515,863</b>	<b>147,251,111</b>	<b>△ 1,735,248</b>	
II 指定正味財産増減の部			0	
① 受取補助金等				
受取補助金等	7,000,000	8,300,000	△ 1,300,000	
② 一般正味財産への振替額				
一般正味財産への振替額	△ 8,045,771	△ 8,000,000	△ 45,771	
当期指定正味財産増減額	△ 1,045,771	300,000	△ 1,345,771	
指定正味財産期首残高	3,615,595	3,315,595	300,000	
<b>指定正味財産期末残高</b>	<b>2,569,824</b>	<b>3,615,595</b>	<b>△ 1,045,771</b>	
<b>III 正味財産期末残高</b>	<b>148,085,687</b>	<b>150,866,706</b>	<b>△ 2,781,019</b>	

**令和2年度収支予算書**  
令和2年1月1日から令和2年12月31日まで

(単位:円)

	公益目的事業会計(内訳表)						収益事業等会計	法人会計	内部取引等消去	合計
	公1 学術集会等開催	公2 刊行	公3 褒賞	公4 連携	共通	小計	他1 認定			
<b>I 一般正味財産増減の部</b>										
1. 経常増減の部										
(1) 経常収益										
① 特定資産運用益	0	0	0	0	20,000	20,000		20,000		40,000
基金受取利息					20,000	20,000		20,000		40,000
② 受取会費	0	0	0	0	22,455,000	22,455,000		22,455,000		44,910,000
1 一般会員会費					9,300,000	9,300,000		9,300,000		18,600,000
2 学術評議員会費					9,000,000	9,000,000		9,000,000		18,000,000
3 賛助会員会費					4,155,000	4,155,000		4,155,000		8,310,000
③ 事業収益	60,115,000	6,600,000	0	0	0	66,715,000		0		66,715,000
1 学術集会費収益	56,745,000	0	0	0	0	56,745,000		0		56,745,000
参加登録費	22,335,000					22,335,000		0		22,335,000
器械展示料	16,890,000					16,890,000		0		16,890,000
予稿集広告料								0		0
懇親会費	5,520,000					5,520,000		0		5,520,000
ランチョンセミナー	12,000,000					12,000,000		0		12,000,000
2 購読料	0	500,000	0	0	0	500,000		0		500,000
購読料		500,000				500,000		0		500,000
3 論文掲載料	3,370,000	3,100,000	0	0	0	6,470,000		0		6,470,000
和文誌掲載料		3,000,000				3,000,000		0		3,000,000
英文誌掲載料		100,000				100,000		0		100,000
抄録掲載料	3,370,000					3,370,000		0		3,370,000
4 論文別刷料	0	1,000,000	0	0	0	1,000,000		0		1,000,000
別刷料		500,000				500,000		0		500,000
著作権等使用料		500,000				500,000		0		500,000
5 広告掲載料	0	2,000,000	0	0	0	2,000,000		0		2,000,000
広告掲載料		2,000,000				2,000,000		0		2,000,000
④ 受取補助金等	3,950,000	7,395,771	0	0	0	11,345,771		0		11,345,771
1 指定正味財産からの振替額		7,395,771				7,395,771		0		7,395,771
2 学術集会補助金	3,950,000					3,950,000		0		3,950,000
⑤ 受取寄付金	14,640,000			0		14,640,000		0		14,640,000
1 指定正味財産からの振替額	650,000					650,000		0		650,000
学術集会賛助金	13,990,000					13,990,000		0		13,990,000
⑥ 雑収益	0	0	0	0	1,500	1,500	1,500,000	1,500		1,503,000
受取利息等					1,500	1,500	1,500,000	1,500		1,503,000
<b>経常収益計</b>	<b>78,705,000</b>	<b>13,995,771</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>22,476,500</b>	<b>115,177,271</b>	<b>1,500,000</b>	<b>22,476,500</b>		<b>139,153,771</b>
(2) 経常費用						0				
① 事業費	96,902,096	22,420,671	3,096,900	2,518,544	0	124,938,211	500,000	0	0	125,438,211
1 事務所借料	941,336	209,000	209,000	104,544		1,463,880				1,463,880
2 会場費	42,194,000					42,194,000				42,194,000
3 旅費・通信交通費	4,110,000	800,000	500,000	500,000		5,910,000				5,910,000
4 印刷費	9,060,000					9,060,000				9,060,000
5 会議費	2,970,000	200,000	150,000	100,000		3,420,000				3,420,000
6 謝金・その他	13,840,000		500,000	1,000,000		15,340,000				15,340,000
7 懇親会費	5,320,000					5,320,000				5,320,000
8 編集・刊行費		11,000,000				11,000,000				11,000,000
9 国際情報発信強化費		7,145,771				7,145,771				7,145,771

	公益目的事業会計(内訳表)						収益事業等会計	法人会計	内部取引等消去	合計
	公1 学術集会等開催	公2 刊行	公3 褒賞	公4 連携	共通	小計	他1 認定			
10 学術事業協力費				550,000		550,000				550,000
11 副賞			1,200,000			1,200,000				1,200,000
12 消耗品費		400,000				400,000				400,000
13 業務委託費	17,146,600	2,665,900	537,900	264,000		20,614,400				20,614,400
14 減価償却費	920,160					920,160				920,160
15 租税公課	400,000					400,000				400,000
16 雑費						0	500,000			500,000
② 管理費								<b>15,450,808</b>	<b>0</b>	<b>15,450,808</b>
1 事務所借料								627,000		627,000
2 臨時雇賃金								500,000		500,000
3 旅費・通信交通費								3,500,000		3,500,000
4 印刷費								300,000		300,000
5 会議費								700,000		700,000
6 リース料								191,808		191,808
7 消耗品費								1,000,000		1,000,000
8 支払手数料								1,600,000		1,600,000
9 慶弔費								500,000		500,000
10 業務委託費								5,185,600		5,185,600
11 租税公課								20,000		20,000
12 減価償却費								626,400		626,400
13 選挙費								500,000		500,000
14 雑費								200,000		200,000
<b>経常費用計</b>	<b>96,902,096</b>	<b>22,420,671</b>	<b>3,096,900</b>	<b>2,518,544</b>	<b>0</b>	<b>124,938,211</b>	<b>500,000</b>	<b>15,450,808</b>	<b>0</b>	<b>140,889,019</b>
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 18,197,096	△ 8,424,900	△ 3,096,900	△ 2,518,544	22,476,500	△ 9,760,940	1,000,000	7,025,692	0	△ 1,735,248
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
<b>当期経常増減額</b>	<b>△ 18,197,096</b>	<b>△ 8,424,900</b>	<b>△ 3,096,900</b>	<b>△ 2,518,544</b>	<b>22,476,500</b>	<b>△ 9,760,940</b>	<b>1,000,000</b>	<b>7,025,692</b>	<b>0</b>	<b>△ 1,735,248</b>
2. 経常外増減の部										
(1)経常外収益										
中科目別記載										
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2)経常外費用										
中科目別記載										
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 18,197,096	△ 8,424,900	△ 3,096,900	△ 2,518,544	22,476,500	△ 9,760,940	1,000,000	7,025,692		△ 1,735,248
他会計振替額					500,000	500,000	△ 500,000	0		0
当期一般正味財産増減額	△ 18,197,096	△ 8,424,900	△ 3,096,900	△ 2,518,544	22,976,500	△ 9,260,940	500,000	7,025,692	0	△ 1,735,248
一般正味財産期首残高					79,011,033	79,011,033	0	68,240,078	0	147,251,111
一般正味財産期末残高	△ 18,197,096	△ 8,424,900	△ 3,096,900	△ 2,518,544	101,987,533	69,750,093	500,000	75,265,770	0	145,515,863
II 指定正味財産増減の部										
受取補助金		7,000,000				7,000,000		0		7,000,000
一般正味財産への振替額	△ 900,000	△ 7,145,771				△ 8,045,771		0		△ 8,045,771
当期指定正味財産増減額	△ 900,000	△ 145,771				△ 1,045,771		0		△ 1,045,771
指定正味財産期首残高	2,300,000	1,315,595				3,615,595		0		3,615,595
指定正味財産期末残高	1,400,000	1,169,824				2,569,824		0		2,569,824
III 正味財産期末残高	<b>△ 16,797,096</b>	<b>△ 7,255,076</b>	<b>△ 3,096,900</b>	<b>△ 2,518,544</b>	<b>101,987,533</b>	<b>72,319,917</b>	<b>500,000</b>	<b>75,265,770</b>	<b>0</b>	<b>148,085,687</b>



## V. 名誉会員候補者一覧（令和2年度）

理事会は、名誉会員推薦規定第2条第1項第1号 b) 及び同運用基準第2項第1号、第2号、並びに、名誉会員推薦規定第2条第3項に該当すると判断し、次の9氏を推薦いたします。

令和2年4月1日現在、氏名五十音順

氏名 (所属)	年齢 正会員歴	薬理学への功績	本会の 発展への功績
飯野 正光 (日本大学医学部)	69歳 44年	カルシウムシグナルの基本機構を明らかにし、それを基盤とした生理・病態機構研究で優れた業績を挙げた	理事長1期 理事5年 委員27年 年会長
伊藤 芳久 (横浜薬科大学)	66歳 42年	脳内GABA <sub>A</sub> 受容体の性状を神経薬理的に明らかにするとともに、神経変性疾患治療薬の候補物質を見出した	理事4年 監事2年 委員13年 部会長
植田 弘師 (京都大学薬学部)	66歳 44年	大学院および大学薬理学教員として痛みとオピオイド研究分野に貢献した。	理事2年 監事1年 委員6年 年会長
荻田 喜代一 (摂南大学薬学部)	65歳 36年	グルタミン酸受容体およびその細胞内シグナルの解明、海馬障害後のニューロン新生の調節メカニズムの解明、聴覚障害のメカニズムの解明とその予防・治療薬の開発	委員9年 部会長
芝野 俊郎 (第一三共株)	65歳 43年	循環器領域の創薬研究に従事し、特に新規抗凝固薬として、ファクターXa阻害薬の創製に貢献した	理事4年
武田 弘志 (国際医療福祉大学薬学部)	66歳 43年	ストレス医学に関する研究で多大な業績を挙げ、薬理学、特に神経精神薬理分野の発展に大いに貢献した	理事8年 委員27年 部会長
服部 裕一 (北海道医療大学がん 予防研究所)	66歳 42年	ヒスタミン心血管系作用機構、糖尿病合併症発症機構、敗血症の遺伝子治療など多岐に渡る研究に着手し、いずれも国際的に高く評価された	監事2年 委員9年 部会長
馬嶋 正隆 (北里大学医療系研究科)	65歳 35年	病態時の生理活性脂質、ペプチドの生体内機能解析と治療応用への基盤研究	監事2年 委員3年
山中 伸弥 (京都大学 iPS 研究所)	57歳 30年	ヒト人工多能性幹細胞 (iPS 細胞) の樹立と iPS 細胞を用いた創薬技術の開発	

### 「名誉会員推薦規定」(抜粋) (資格)

第2条 名誉会員として推薦することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 本会の正会員として20年以上在籍し、年齢65才以上の、役員または常置委員在任中ではない者で、かつ次の事項のいずれかに該当する者
  - a) 薬理学の研究分野において特に学術上の功績が大である者
  - b) 薬理学及び本会の発展に功績が顕著である者
- (2) 非会員のうち、薬理学における学術上の功績が大であり、かつ特に本会の発展に功績が顕著である者
- 2 前項第1号の正会員歴の算定にあたり、理事会は特別の考慮を払うことができる。
- 3 第1項第1号にかかわらず、理事会は特段の審議を行い、学術上の功績が特に顕著であった正会員を名誉会員に推薦することができる。

### 「名誉会員推薦規定運用基準」(抜粋)

2. 名誉会員推薦規定第2条第1号 b) の「本会の発展に功績が顕著である者」は、以下の各号のいずれかの者とする。
  - (1) 理事、監事又は年会長を経験した者
  - (2) 常置委員会及び特別委員会の委員等を通算10年以上経験した者
3. 名誉会員推薦規定第2条第2号については、以下のとおりとする。
  - (1) 「薬理学における学術上の功績が大である者」は、学士院賞に相当する以上の賞の受賞者又は理事会がそれと同等以上の学術上の功績があると認めた者とする。
  - (2) 「特に本会の発展に功績が顕著である者」は、本会の学術集会で特別講演を行った者、Journal of Pharmacological Sciences に極めて価値のある総説を寄稿した者、Journal of Pharmacological Sciences の Regional Editor として貢献した者、又は理事会がそれらと同等以上の功績があると認めた者とする。

## VI. 永年会員候補者一覧（令和2年度）

理事会は、永年会員推薦規定第2条及び同運用基準第1項に該当すると判断し、次の14氏を推薦いたします。

令和2年4月1日現在、氏名五十音順

	氏名／所属歴	年齢	学術評議員歴	正会員歴	適用運用基準
赤木 正明	徳島文理大学薬学部 勇心酒造(株)顧問	70歳	30年		第1号
今井 繁	杏林製薬(株)	74歳	-	50年	第2号
内山 利満	東邦大学医学部/巨摩公立病院 東邦大学評議員	75歳	-	50年	第2号
大森 健守	協和発酵(株)/横浜薬科大学 聖徳大学人間栄養学部	73歳	-	50年	第2号
片岡 泰文	福岡大学薬学部薬学疾患管理 福岡大学薬学部応用薬剤学	70歳	34年		第1号
北谷 照雄	アクテリオン ファーマシュー ーティカルズ ジャパン	72歳	-	50年	第2号
黒木賀代子	九州歯科大学 九州歯科大学名誉教授	80歳	30年		第1号
小濱 一弘	群馬大学医学部 群馬大学名誉教授	75歳	41年		第1号
東城 庸介	北海道医療大学歯学部薬理 北海道大学歯学教育支援室	70歳	35年		第1号
戸部 昭広	三菱ウェルファーマ(株) 三菱UFJ技術育成財団	73歳	-	50年	第2号
野村 隆英	藤田医科大学医学部 愛知みずほ大学人間学部	70歳	31年		第1号
元山 行雄	藤沢薬品工業(株)	72歳	-	50年	第2号
大和谷 厚	大阪大学大学院医学系研究科 大阪大学名誉教授	70歳	36年		第1号
吉村 裕之	愛媛大学医学部	73歳	-	50年	第2号

### 永年会員推薦規定(抜粋)

第2条 永年会員として推薦することができる者は、年齢70才以上であり、かつ別に定める永年会員推薦規定運用基準に該当する者とする。

### 永年会員推薦規定運用基準(抜粋)

1. 永年会員推薦規定第2条に基づき、理事会が永年会員に推薦する者は、次の各号のいずれかに該当しなければならない。

- (1) 本会の学術評議員としての経歴が30年以上あり、かつ、部会長、常置委員会委員、特別委員会委員、Journal of Pharmacological SciencesのEditor又は日薬理誌の編集委員として本会の発展に貢献した者
- (2) 本会の正会員として50年以上在籍した者

## VII. 部会選出新常置委員会委員一覧

2020, 2021 年度  
部会選出新常置委員一覧

(委員は五十音順, 次点者は得票順)

北部会	関東部会	近畿部会	西南部会
石井 邦明	赤羽 悟美	上原 孝	岩本 隆宏
岡村 信行	天野 託	大野 行弘	甲斐 広文
小原祐太郎	安西 尚彦	大矢 進	武田 泰生
谷村 明彦	池谷 裕二	金子 周司	津田 誠
守屋 孝洋	石毛久美子	高井 真司	西 昭徳
若森 実	上園 保仁	土屋浩一郎	柳田 俊彦
	諫田 泰成	冨田 修平	
	木内 祐二	西山 成	
	黒川 洵子	橋本 均	
	佐藤 洋美	山田 清文	
	成田 年	山村 寿男	
	三澤日出巳	吉栖 正典	
次点者	次点者	次点者	次点者
安東 嗣修	辻 稔	吾郷由希夫	岩崎 克典
佐伯万騎男	小林 真之	中川 貴之	香月 博志
吉岡 充弘	石川 智久	金田 勝幸	筒井 正人
新田 淳美	小泉 修一	金井 好克	和田孝一郎
色摩 弥生	田中 光	田熊 一徹	齊藤 源頭
久米 利明	杉山 篤	川畑 篤史	黒瀬 等
	堀 正敏	稲垣 直樹	
	野部 浩司	白川 久志	

## Ⅷ. 規則の制定・変更

### 制 定

### 資産運用規程

令和2年1月31日制定

(目的)

第1条 この規程は、公益社団法人日本薬理学会（以下、「本会」という）が保有する資産について運用基準を定め、中長期的かつ継続的に円滑な資産の運用を実施すること、及びリスクの分散による安全な資産の運用を図ることを目的とする。以下、この規程では、本会が保有する預貯金等は資金、非資金に係わらず、総称して資金という。

(資産の区分)

第2条 資金運用の対象とする資産は、次のとおりとする。

- (1) 薬理学基金
- (2) 振興基金
- (3) 国際基金
- (4) 運用資産

(運用体制)

第3条 運用責任者は、理事長の命を受けた財務委員長とする。

2 資金運用の事務手続きは、運用責任者の指示を受けて事務職員が行う。

(管理運用の方法)

第4条 第2条第1項第1号の資産は、安全かつ確実性の高い預貯金及び有価証券等で管理運用するものとする。第2条第1項第2号、同第3号及び同第4号の資産は、日常的な学会運営に必要な資金（現金及び流動性預金等）を除き、元本が回収できる可能性が高く、かつ、相応の運用益が得られる方法で管理運用するものとする。

(運用の対象)

第5条 この規程において、運用対象（以下、「金融商品」という）は、次に掲げるものをいう。

- (1) 預金・貯金
- (2) 金銭信託・貸付信託
- (3) 公共債（国債、地方債、政府関係機関債など）
- (4) 社債（一般事業債など）
- (5) 金融債
- (6) 円建外債（ユーロ円債を含む）
- (7) その他理事会において承認を得たもの

(債券運用)

第6条 前条のうち、債券については、公共債等明らかに高い信用情報を有するもの以外は、信用ある格付機関のいずれかにより格付を得ている銘柄とする。

(運用手続)

第7条 運用責任者は、資金運用方針について、予め理事長の承認を得るとともに、財務委員会で決定後、理事会に報告するものとする。

(運用額の範囲)

第8条 資金運用の範囲は運用資金の総額を勘案のうえ、次の各号の通りとする。

- (1) 1件当たり1,000万円以下の場合、運用責任者の決定による。
- (2) 1件当たり1,000万円を超え、5,000万円以下の場合、理事長および常務理事の決定による。
- (3) 1件当たり5,000万円を超える場合は、理事会の承認を得るものとする。

(資産の運用状況の報告)

第9条 運用責任者は、資産の運用状況について、定期的に理事長に報告するものとする。また、理事長は、資産の運用状況について、定期的に理事会に報告するものとする。

(運用責任者の責任)

第10条 運用責任者は、関係法令、定款及びこの基準並びに理事会の決定を遵守し、資産の運用業務を遂行するものとする。

(情報の収集)

第11条 運用責任者は、経済情勢、金融情勢の他、預金先金融機関に対し必要に応じて、当該金融機関にかかる自己資本比率、資金量、貸付資産に対する貸倒引当率、その他必要な事項、保有する債券発行先について情報の収集及び調査を行うものとする。

(緊急事態への対応)

第12条 保有する金融商品の大幅な価格下落、信用力の低下等、緊急の事態が発生したときは、運用責任者は速やかに理事長と協議し、適切な措置を講じなければならない。

(その他)

第13条 この規程に定めるもののほか、資金運用に関し必要な事項は理事長が定める。

2 金融・経済情勢の変化に応じ、この規程の見直しを行う。

附 則

この規程は、令和2年2月1日から施行する。

変 更

定 款

現 行	変 更
	(附則に3を追加) 3 <u>2019年4月1日より2021年3月31日までの期間、事務局を外部委託するものとし、第25条第4項及び第53条の規定の「職員」は委託先の「事務局専従者」に読み替えるものとする。</u>

定款施行細則

現 行	変 更
第18条 本会に、理事長のほかに次期理事長候補者として副理事長1名を置く。 2 副理事長は理事会において任期1期目の理事中より選出する。副理事長は就任2期目となる初年度の4月1日において年齢満65才未満でなければならない。 3 副理事長が任期中に事故あるとき、又は副理事長が欠けたときは、理事会は別の者を副理事長に選任することができる。 4 <u>副理事長が常務理事でない場合は、常務理事会にオブザーバーとして出席する。</u>	4 <u>副理事長を定款第24条第2項に定める常務理事とする。</u>

名誉会員推薦規定

現 行	変 更
(資 格) 第2条 名誉会員として推薦することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。 (1) 本会の正会員として20年以上在籍し、年齢65才以上の、役員または常置委員在任中ではない者で、かつ次の事項のいずれかに該当する者 a) 薬理学の研究分野において特に学術上の功績が大である者 b) 薬理学及び本会の発展に功績が顕著である者 (2) 非会員のうち、薬理学における学術上の功績が大であり、かつ特に本会の発展に功績が顕著である者 2 前項第1号の正会員歴の算定にあたり、理事会は特別の考慮を払うことができる。	(3項を追加) 3 <u>第1項第1号にかかわらず、理事会は特段の審議を行い、学術上の功績が特に顕著であった正会員を名誉会員に推薦することができる。</u>

(常置委員会別表) 企画教育委員会所管事項

現 行	変 更
(1) 本会の将来計画に関わる企画、調査及び検討 (2) 学術集会のあり方、実施計画への助言、日程調整など (3) 関連学術団体との交流の検討 (4) 教育に関連した事項についての企画、調査、検討及び提言  (5) 新学術評議員候補者の選定 (6) 次世代の会の支援、育成 (7) 学術集会等でのダイバーシティ推進事業の企画・策定  (8) 会員動向に基づく事業計画の提案	(1) 本会の将来計画に関わる企画、調査及び検討 (2) 学術集会のあり方、実施計画への助言、日程調整など (3) 関連学術団体との交流の検討 (4) 教育に関連した事項についての企画、調査、検討及び提言 (5) <u>薬理学エドゥケーター申請書の審査</u> (6) 新学術評議員候補者の選定 (7) 次世代の会の支援、育成 (8) 学術集会等でのダイバーシティ推進事業の企画・策定 (9) <u>看護薬理カンファレンスの企画・運営</u> (10) 会員動向に基づく事業計画の提案

旅費及び会議費等支給規定

現 行	変 更
<p>(旅 費)</p> <p>第2条 旅費として、次の算定に基づき交通運賃及び宿泊費を支給する。日当は支給しない。</p> <p>(1) 交通運賃</p> <p>鉄道と空路の区別及びコース等は、実態に合うよう財務委員長が決定し、利用交通機関による運賃を支給する。運賃の算定は以下の原則によるが、原則によらない場合は、本人の申し出により財務委員長が決定する。</p> <p>1) 同都道府県内の場合は、<u>一律 2,000 円</u> を支給する。</p> <p>2) 東京近郊、京阪神間は、<u>一律 3,000 円</u> を支給する。</p> <p>3) 鉄道運賃は、基幹区間の普通車料金と通常期の特急料金(新幹線があれば適用)に<u>一律 2,000 円を加えて支給する。</u></p> <p>4) 航空運賃は、<u>通常料金の往復割引料金を一律 3,000 円を加え支給する。</u></p> <p>(旅費の支給)</p> <p>第4条 会議の招集者は、開催日時及び場所が決定したら事務局に連絡し、会議終了後、出席者氏名を連絡する。事務局は、<u>連絡を受け次第、予め各委員が登録した銀行口座に入金する。</u></p> <p>(会議費の請求)</p> <p>第6条 会議費は原則として請求書を事務局に送付し、事務局が請求者宛直接支払う。ただし、会議費を招集者が立替えて支払った場合は、事後に事務局に領収証を添えて請求する。</p> <p>(通信費の請求)</p> <p>第7条 領収証を添えて事務局に請求する。</p>	<p>1) 同都道府県内の場合は、<u>支給しない。</u></p> <p>2) 東京近郊、京阪神間は、<u>支給しない。</u></p> <p>3) 鉄道運賃は、基幹区間の普通乗車券と特急料金(新幹線があれば適用)を支給する。<u>ただし、前1)、2)により基幹駅までの交通費は支給しない。</u></p> <p>4) 航空運賃は、<u>実費の領収書と搭乗券の半券が事務局に郵送された後に支給する。ただし、前1)、2)により出発地から空港まで及び空港から用務地までの交通費は支給しない。支給を急ぐ場合は、FAX等での提出により手続きを行うことができるが、原本は後日事務局に郵送しなければならない。</u></p> <p>第4条 会議の招集者は、開催日時及び場所が決定次第事務局に連絡し、会議終了後、出席者氏名を連絡する。事務局は、各委員が登録した銀行口座に入金する。</p> <p>第6条 会議費は原則として請求書を事務局に送付し、事務局が請求者宛直接支払う。ただし、会議費を招集者が立替えて支払った場合は、事後に事務局に領収書を添えて請求する。</p> <p>第7条 領収書を添えて事務局に請求する。</p> <p>(附則に8を追加)</p> <p>8. <u>本規定は平成31年4月1日以降に開催される会議より適用する。</u></p>

## 日本薬理学会利益相反 (COI) マネージメント施行細則 (抜粋)

### 第1条 (COIで申告すべき項目と申告の基準)

1) 本学会学術集会などでの発表, 2) 本学会誌などでの発表, 3) 第4条第1項に定める役員・委員等, 4) 学術集会・講演会責任者 (年会長・部会長等) の就任によりCOIの申告を必要とされる者の申告すべき項目と申告の基準は次表のとおりとする。

申告すべき項目	申告の基準
①企業や営利を目的とした団体の役員, 顧問職の有無と報酬額	1つの企業・団体からの報酬額が年間100万円以上のもの
②株の保有と, その株式から得られる利益 (1年間の本様式による利益)	1つの企業の1年間の利益が100万円以上のもの, あるいは当該株式の5%以上保有のもの
③企業や営利を目的とした団体から特許権使用料として支払われた報酬	1つの特許使用料が年間100万円以上のもの
④企業や営利を目的とした団体より, 会議の出席 (発表, 助言など) に対し, 研究者を拘束した時間・労力に対して支払われた日当, 講演料などの報酬	1つの企業・団体からの講演料が年間合計50万円以上のもの
⑤企業や営利を目的とした団体がパンフレットなどの執筆に対して支払った原稿料	1つの企業・団体からの原稿料が年間合計50万円以上のもの
⑥企業や営利を目的とした団体が契約に基づいて提供する研究費	1つの企業・団体から, 医学系研究 (共同研究, 受託研究, 治験など) に対して, 申告者が実質的に用途を決定し得る研究契約金で, 実際に割り当てられた年間100万円以上のもの
⑦企業や営利を目的とした団体が提供する奨学 (奨励) 寄附金	1つの企業・団体から, 申告者個人または申告者が所属する講座・分野または研究室に対して, 申告者が実質的に用途を決定し得る寄附金で, 実際に割り当てられた100万円以上のもの
⑧企業などが提供する寄附講座	実質的に用途を決定し得る寄附金で, 実際に割り当てられた100万円以上のもの
⑨その他の報酬 (研究とは直接に関係しない旅行, 贈答品など)	1つの企業・団体から受けた報酬が年間5万円以上のもの

### 第2条 (本学会学術集会などでの発表)

#### 第1項 (開示の範囲)

本学会学術集会などでの発表で開示する義務のあるCOI状態は, 会員・非会員の別を問わず発表内容に関連する企業や団体に関わるものに限定し, 次のような関係とする。

- 1 医学系研究を依頼し, または共同で行った関係 (有償無償を問わない)
- 2 医学系研究において評価される療法・薬剤, 機器などに関連して特許権などの権利を共有している関係
- 3 医学系研究において使用される薬剤・機材などを無償もしくは特に有利な価格で提供している関係
- 4 医学系研究について研究助成・寄付などを行っている関係
- 5 医学系研究において未承認の医薬品や医療器機などを提供している関係
- 6 寄附講座などの資金提供者となっている関係

### 様式1-B 開示例 (2019年11月総務委員会改定)

(学術講演時に申告すべきCOI状態が有る場合)

COI開示
筆頭発表者: 京都 次郎
責任発表者: 大阪 三郎
演題発表内容に関連し, 筆頭および責任発表者の過去3年間のCOI関係にある企業などは以下のとおりです
講演料: A製薬, B製薬
原稿料: C製薬
奨学寄附金: B製薬, D製薬

※抄録提出時及び発表時に, 抄録提出時の前年より過去3年間における筆頭および責任発表者のCOI状態を申告し, 発表時に, 発表スライドの最初あるいはポスターの最後に開示する。

※演題発表内容に関連し, 筆頭および責任発表者の, 開示すべき内容が過去3年間にある項目のみ記載する。

- ①顧問:
- ②株保有・利益:
- ③特許使用料
- ④講演料:
- ⑤原稿料:
- ⑥受託研究・共同研究費
- ⑦奨学寄附金
- ⑧寄附講座所属:
- ⑨贈答品などの報酬:
- ⑩薬剤・機材などの提供:

(申告項目と申告基準は, 日本薬理学会利益相反 (COI) マネージメント施行細則(2017年12月8日改定)第1条に基づく)

## IX. 理事会等報告

理事長：吉岡 充弘 以上 1名  
理事：安西 尚彦，池谷 裕二，石毛久美子，上園 保仁，植田 弘師，金井 好克，金子 周司，吉川 公平，  
木村 英雄，五嶋 良郎，笹栗 俊之，戸村 裕一，西堀 正洋，橋本 均，福永 浩司，谷内 一彦，  
矢部 千尋，山田 清文 以上 18名  
監事：伊藤 芳久，服部 裕一 以上 2名  
オブザーバー：赤池 昭紀，飯野 正光 以上 2名

### 1. 理事会構成について

2019年度は、吉岡 充弘理事長，橋本 均総務委員長，谷内 一彦財務委員長，山田 清文編集委員長の各常務理事，企業所属理事，公的研究機関所属理事，女性理事の19名で理事会が運営された。監事は理事の業務執行を監査するため全ての理事会に出席した。赤池 昭紀前理事長，飯野 正光国際対応委員会委員長はオブザーバーとして理事会に参加し，理事会運営を支援した。

### 2. 学会の運営方針について

1) 第18回国際薬理学・臨床薬理学会議（WCP2018）の成功を受けて，国際連携強化を目標とした国際化の推進，2) 年会および部会のサステナブルな運営ならびに活性化，3) 日本薬理学会創立100周年に向けた記念事業の企画および準備，3) 学会誌発行経費節減の取組み，国際誌としての Journal of Pharmacological Sciences (JPS) のレベルアップの推進，4) 安定した学会運営体制の構築，4) 他学会との協働ならびに連携の推進，5) 次世代の会活動の推進，看護薬理学への対応，薬理学エデュケーター制度の充実，の各活動方針のもとに学会運営を行った。

### 3. 学会の在り方と薬理学の展開について

日本医学会の「医学研究の利益相反（COI）マネジメントに関するガイドライン」に沿い，それぞれの事業でCOIの開示に務めた。

#### 1) 学術集会，講演会等の開催事業について

- ・第92回年会（金井 好克年会長）は，3月14日から16日まで，大阪国際会議場（グランキューブ大阪）で開催された。  
テーマ：『創造と協奏 ～薬理学の新たな地平を拓く  
～ Concerto on science and innovation toward new horizon of pharmacology』
- ・地方部会は，札幌市，東京都2開催（うち1開催は誌上開催），岐阜市，大阪府枚方市，沖縄県那覇市の各会場で地域の特性を生かした企画で6回開催された。
- ・薬理学振興助成事業の公開講座は第92回年会，第72回西南部会で開催された。第141回関東部会の公開講座は当日台風接近のため中止となったが，講演要旨は第141回関東部会ホームページに掲載されている。
- ・次世代の会による次世代薬理学セミナーは第140回関東部会，第72回西南部会で2回開催された。
- ・看護薬理学セミナーは第92回年会，第70回北部会それぞれと連携して2回開催された。

#### 2) 学会誌等刊行物の刊行事業について

- ・日薬理誌の発行形態変更に伴い，委託契約内容を変更した。日薬理誌は2020年1月より，隔月刊となり奇数月に発行する。
- ・Japanese Pharmacological Sciences (JPS) は2019年度でエルゼビアとの委託契約の5年が終了するため，契約内容の変更を行い，委託契約を継続することとした。JPS 査読者の質の向上と，掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的で創設された JPS 優秀査読者賞の令和1年度受賞者5名を決定した。

#### 3) 研究の奨励及び研究業績の表彰事業について

- ・江橋節郎賞選考委員会の答申に基づき尾藤 晴彦教授（東京大学大学院医学系研究科）を第13回江橋節郎賞受賞者に決定した。



- ・第35回学術奨励賞受賞者3名及び第24回JPS優秀論文賞受賞論文2編を決定した。JPS優秀論文賞は、過去3年間に掲載された原著論文の中で引用回数が多い順に約10編を選び、その中から選考されている。

#### 4) 薬理学に関する研究及び調査について

- ・全国医学部薬理学教育に関するアンケート結果を踏まえ、薬理学エドゥケーターが薬理学実習や薬理学講義のテキストを共有するためのシステム及びルール構築に向けて次期も引き続き検討を行う。

#### 5) 内外の関連学術団体との連携及び協力事業について

- ・第92回日本薬理学会年会の会期中に、日本毒性学会、日本リウマチ学会、日本臨床薬理学会、日本細胞組織学会とそれぞれ共催シンポジウムを開催した。
- ・日中薬理学・臨床薬理学ジョイントミーティングは、8月4日～5日に昆明市で開催された。日本薬理学会から“Neuropharmacology on Cognitive Function”を、日本臨床薬理学会から“Recent trend in pharmacogenomics”のシンポジウムを提案し、日本から35名が参加した。
- ・ASCEPT年会(2019年11月25～29日、Queenstown, New Zealand)に講師として池谷 裕二教授(東京大学薬学部)を派遣した。第93回日本薬理学会年会にはDr. Denise Wootten 准教授(Monash 大学)を講師として招聘する。

4. 「薬理学エドゥケーター認定制度」が発足し、404名の申請があり、全員が認定された。認定期間は令和2年から5年間である。令和2年も特例による申請を受け付ける。

#### 5. 第95回(2022年)年会長候補者の決定

第95回日本薬理学会年会長として鹿児島大学大学院医歯学研究科の宮田 篤郎教授が提案され、承認された。

#### 6. 名誉会員の推薦

令和2年度に就任する名誉会員候補者9名を学術評議員会及び総会に推薦することを決定した。

飯野 正光, 伊藤 芳久, 植田 弘師, 荻田 喜代一, 芝野 俊郎, 武田 弘志, 服部 裕一,  
馬嶋 正隆, 山中 伸弥

#### 7. 永年会員の推薦

令和2年度に就任する永年会員候補者14名を学術評議員会及び総会に推薦することを決定した。

赤木 正明, 片岡 泰文, 黒木賀代子, 小濱 一弘, 東城 庸介, 野村 隆英, 大和谷 厚,  
今井 繁, 内山 利満, 大森 健守, 北谷 照雄, 戸部 昭広, 元山 行雄, 吉村 裕之

#### 8. 令和2年度薬理学振興助成事業決定について

1) 次世代薬理学セミナー, 2) 市民公開講座, 3) ダイバーシティ推進ランチョンセミナー2020, 4) 看護薬理学カンファレンス2020, 5) 臨床医のための薬理学シンポジウム, 6) アカデミア創薬のためのレギュラトリーサイエンスセミナー, 7) 若手研究者キャリア支援プログラム, 8) 医学と医療における日本の薬理学の貢献2020版刊行, の各助成事業及び助成額を決定した。

9. 令和1年度の事業報告及び決算を承認し、学術評議員会及び総会に付議する。令和2年度事業計画及び予算は、令和1年12月3日開催の理事会の承認、決定を経て内閣府に提出した。

10. 令和1年度の新規入会者423名を承認した。令和2年度からシニア割引適用を希望する9名を承認した。

## 2020, 2021 役員年度 役員等選挙報告

### 役員（理事・監事）選挙

#### 1. 役員候補者被選挙権者の推薦

平成 30 年 10 月 1 日：学会ホームページ会員専用サイトに被選挙権有資格者名簿公示，Web 推薦受付開始

10 月末日：推薦締切

11 月 9 日：役員候補者被選挙権者確定 開票管理者 橋本 均 総務委員長

安西 尚彦 総務委員

2 名以上からの推薦を 受け役員候補者被選挙 権者となった者	北	関東	近畿	西南
	2 0	1 0 9	8 7	2 8
	推薦権行使者数			378
	推薦権行使率			30.4(%)

#### 2. 役員候補者選挙（第一段選挙：部会毎の電子投票）

平成 30 年 11 月 15 日：会員専用サイトに被選挙権者名簿公示，投票サイトオープン

12 月 10 日：投票締切

15 日：4 部会一斉開票（候補者決定）

18 日：選挙結果を学会ホームページの会員専用サイトで通知

	北	関東	近畿	西南	総計
投票者数	68	214	197	71	550
投票率	50.4	40.5	45.8	47.0	44.2(%)
（前回）	(47.3)	(43.6)	(48.0)	(51.9)	(46.5)
開票管理者	松本 欣三	杉山 俊彦	徳山 尚吾	笹栗 俊之	
橋本総務委員長	（部会長）	（部会長）	（部会長）	（部会長）	

#### 【Web 選挙結果】（50 音順）

理事候補者 北 部 会：石井 邦明，福永 浩司，南 雅文，谷内 一彦 以上 4 名  
 関東部会：赤羽 悟美，安西 尚彦，石川 智久，木内 祐二，小泉 修一，  
 五嶋 良郎，杉山 篤，田中 光，成田 年，三澤日出巳 以上 10 名  
 近畿部会：上原 孝，金子 周司，田熊 一敏，富田 修平，西堀 正洋，  
 西山 成，原 英彰，古屋敷智之，矢部 千尋，吉栖 正典 以上 10 名  
 西南部会：甲斐 広文，武田 泰生，津田 誠，宮田 篤郎 以上 4 名  
 監事候補者 稲垣 直樹，大矢 進，笹栗 俊之，関野 祐子，高橋 健三，新田 淳美 以上 6 名

#### 3. 役員選挙（第二段選挙：年会時学術評議員会出席者による投票）

平成 31 年 2 月号：日薬理誌（153：2）に役員候補者名簿掲載。

平成 31 年 2 月 8 日：役員候補者の抱負を会員へのお知らせに掲載。

15 日：学会ホームページに役員候補者名簿公示。

3 月 14 日：年会時学術評議員会で理事・監事選挙実施。

#### 【年会学術評議員会の選挙結果】

理事候補者 北 部 会：南 雅文，谷内 一彦 以上 2 名  
 関東部会：安西 尚彦，石川 智久，小泉 修一，五嶋 良郎，杉山 篤 以上 5 名  
 近畿部会：上原 孝，金子 周司，原 英彰，古屋敷智之，矢部 千尋 以上 5 名  
 西南部会：津田 誠，宮田 篤郎 以上 2 名  
 監事候補者 笹栗 俊之，関野 祐子 以上 2 名

### 常置委員会委員選挙

役員候補者選挙 2. と同時に投票及び開票を行った（投票数，投票率は役員候補者選挙と同じ）。

## X. 委員会等報告

(各委員会委員名は五十音順、敬称略)

### 総務委員会報告

委員長：橋本 均

委員：安西 尚彦，香月 博志，川畑 篤史，木村 英雄，関野 祐子，土屋浩一郎，守屋 孝洋

本年度は11月11日に委員会を開催し、他にメール会議により、審議を行った。

#### 1. 規則の変更について

- ・定款に、付則3として『2019年4月1日より2021年3月31日までの期間、事務局を外部委託するものとし、第25条第4項及び第53条の規定の「職員」は委託先の「事務局専従者」に読み替えるものとする。』を追加した。
- ・定款施行細則第18条

常務理事の定数は定款第24条第2項で3名と定められている。慣例的に総務、財務、編集の各委員長が務めてきたが、副理事長を役職指定で常務理事とする第18条の変更を行うことで、理事長の補佐役としての位置付けを明確にし、理事会の継続性を図るものである。

4項 副理事長が常務理事でない場合は、常務理事会にオブザーバーとして出席する。

↓

4項 副理事長を定款第24条第2項に定める常務理事とする。

#### ・名誉会員推薦規定について

会員が名誉会員に推薦されるためには、就任年の4月1日に満65歳以上を充足する必要がある。学術上の功績が特に顕著な会員にも満65歳の年齢要件が適用されるため、年齢要件を充足しなくとも、名誉会員に就任できる場合を追加する変更である。会員が名誉会員に推薦される場合の特例に該当するため、適用については、理事会で特段の審議を経ることを前提とする。

#### ・常置委員会規定の別表について

薬理学エデュケーター認定事業や看護薬理への取り組み等の新しい事業を、所管する委員会の業務に追加した。

#### ・COI マネージメント施行細則に基づき、COI 状態の開示様式の記載例を一部変更した。COI マネージメント施行細則第2条第1項の「医学系研究において使用される薬剤・機材などを無償もしくは特に有利な価格で提供を受けている」COI 状態を申告すべき項目を開示例の記載に追加する変更である。2020年の春期部会から新しい様式で申告を行う。

#### 2. 役員選考委員会選出理事の候補者事前紹介について

本会の理事は、選挙選出理事と役員選考委員会から選出される理事で構成されている。役員選考委員会選出理事が役員選考委員会から理事候補者に選出された段階で候補者の人物像や抱負を会員（代議員及び学術評議員）に公示することを今回、試行してみることを決定した。

#### 3. 個人情報保護に関する申合せの変更について

平成17年4月に施行された個人情報保護法が平成29年5月30日に改正されているため、これに合わせて、本会の申合せを変更することを決定した。今期は、専門家のアドバイス等により変更すべきポイントを整理し、具体的な申合せの変更は次期委員会に申し送る。

#### 4. 新名誉会員・新永年会員の推薦について

名誉会員推薦規定及び同運用基準、永年会員推薦規定及び同運用基準に基づき、令和2年度に就任する名誉会員候補者9名、永年会員候補者14名が推薦要件を充足することを確認し、理事会に報告した。

#### 5. シニア会費適用の申請について

令和2年度会費からシニア会費適用を希望する会員について申請内容を確認し、申請者9名全員にシニア会費が適用されることを確認し、理事会に報告した。

### 利益相反（COI）委員会報告

委員長：橋本 均

委員：安西 尚彦，香月 博志，川畑 篤史，木村 英雄，関野 祐子，土屋浩一郎，守屋 孝洋

11月11日の総務委員会に先立ち、委員長と委員の2名で1) 役員就任の2年目、2) 2019年度開催部会の部会長、3) 特別委員会委員のCOI 申告書の内容確認を行い、提出済みの申告書の内容については問題が無いことを確認した。申告書の未提出者、書類の不備、記載漏れについては、事務局で申告書の修正等を求める対応を行う。

## 財務委員会報告

委員長：谷内 一彦

委員：赤羽 悟美, 石毛久美子, 上園 保仁, 植田 弘師, 平 英一, 武田 弘志, 津田 誠, 富田 修平, 吉栖 正典,  
赤池 昭紀 (オブザーバー)

11月26日に委員会を開催し、他に資金運用規程制定のためのメール審議を行った。令和1年度の決算処理を行い、令和2年度の予算案を編成した。

### 1. 令和1年度決算について

令和1年度予算では約900万円の赤字が予想されていたが、本年度発足した薬理学エドゥケーター認定制度に404名の申請があり、申請料総額が606万円となったことを受けて収支差額が大幅に改善し、約80万円の黒字で決算した。

会費収入は全般で減少が続いており、賛助会員獲得に向けて、日本製薬工業協会、日本ジェネリック製薬協会、日本OTC医薬品協会の各加盟企業約300社に、DMを発送し賛助依頼を行ったが、新規の申し込みは得られていない。

学術集会の開催、和英両誌の刊行、褒賞、連携の各事業はいずれも収支差額がマイナスのため、会費収入を補填して当該事業を行っている。

管理費は、事務局が4月から全面外部委託されたため、これまでの人件費が業務委託費に替わって支出される。年会、部会の参加登録費、年会費のカード支払いによる決済件数が増加し、年間180万円を超える支払手数料となっている。公益目的事業会計は約1,355万円の赤字となったものの、薬理学エドゥケーター認定事業と法人会計が黒字で決算したため、令和1年度の正味財産は、一般正味財産が、前年度より約80万円増加の1億7,969万円となり、指定正味財産と合わせて1億8,321万円となった。

### 2. 令和2年度予算案編成の件

令和2年度予算は、令和1年度の決算見込み額に基づいて編成した。

会員数の減少が常に背景にあり、令和1年度予算の会費収入より約58万円減額して計上した。2020年も特例による薬理学エドゥケーター認定申請を受け付けるため、申請者数如何では令和2年度の収支への貢献が期待される。

日薬理誌は令和2年より隔月刊の発行とし、収入では購読料、広告掲載料が減少し、費用では印刷費、発送費が減少する。発行回数及び発行形態の変更で、収入の減少よりも費用の減少のほうが大きく、収支差額のマイナスが500万円ほど改善する見込みである。JPSは、掲載料と広告料の収入合計が14万ドルを超えた金額の10%が学会にロイヤリティとして支払われる契約となり、収入の見込みは僅かであるが、費用は編集事務局経費500万円だけとなる。この契約変更が学会財政にもたらす影響については現時点では予測できない状況である。

学術集会開催、各賞授賞、国内外の各団体との連携は、例年どおり行う予定である。国際情報発信の科研費は5年の受給期間が過ぎ、新たに申請を行ったものの継続して取得できるかどうかは不透明である。

以上により、委員会は約173万円の赤字とする令和2年度収支予算案を理事会に提案した。

### 3. 出版業務委託契約の更改について

中西印刷との和文誌委託契約、エルゼビアとの英文誌委託契約の更改にあたり、弁護士によるアドバイスを受けた後、年度末までに理事長名による契約更改を完了した。契約変更により、JPSのサブリメントとして公開してきた年会要旨集は、今後、年会講演要旨集として新たなISSNを取得し、J-Stageに掲載する。

### 4. その他決定事項等

- ・学会の預貯金は主に国債で運用していたが、新規国債の募集が無いため、公益法人として許され、かつ元本が保証される運用について、金融機関等への相談を行った。
- ・令和1年の開催部会から演題登録料を部会収入としたため、部会1開催あたり30万円の部会交付金を、部会活動を阻害しない程度に減額し、令和3年度から20万円とすることを決定した。
- ・学術集会の充実や他学会年会との共同開催、MR向け教育プログラムなど賛助会員を惹き付ける企画の立案、電子広告の取り組み等、財政状況の改善に向けた検討の必要性を次期に申し送る。

## 研究推進委員会報告

委員長：福永 浩司

委員：赤羽 悟美，石川 智久，岩崎 克典，高井 真司，戸村 裕一，成田 年，西山 成，若森 実

本年度は委員会を 1 回開催した。

1. 「Outstanding Drugs Developed in Japan」の日本語パンフレットについて  
WCP2018 の参加者へ配布した「Outstanding Drugs Developed in Japan」の日本語版を作成した。ホームページに掲載して、冊子体（200部）を第93回日本薬理学会年会にてブースを設けて、配布する。
2. 2008年に刊行した「医学と医療における日本の薬理学の貢献」パンフレットについて  
最近の薬理学の新展開・新技術も含め、改訂に向けて次回の研究推進委員会において検討する。特に、日本薬理学会百周年の記念となるようなものを作成する。
3. 次世代薬理学セミナーについて  
日本薬理学会次世代の会の世話人および企画教育委員会と連携を図り、令和2年度も次世代薬理学セミナーを実施する。次世代薬理学セミナーの実施にあたる「次世代の会」および企画教育委員会と、参加者を増やせるように協力する。

## 編集委員会報告

委員長(JPS Editor-in-Chief)：山田 清文

委員(JPS Associate Editors)：

稲垣 直樹(MMU担当)，上園 保仁，大野 行弘，黒川 洵子，小林 真之，笹栗 俊之，田熊 一敬(Press Editor)，辻 稔，西堀 正洋，西山 成，新田 淳美

I. JPS 投稿・審査状況(投稿数，採択率，Impact Factor)

1. 受付論文数(2019年1月1日～12月31日受付。Reviewを含む。)

1) 分野別：( )内は海外からの内数

1 生理活性物質	24 ( 24)
2 受容体・チャネル・輸送系	42 ( 30)
3 細胞内情報伝達	37 ( 30)
4 生化学薬理	120 (110)
5 末梢神経薬理	6 ( 4)
6 心血管薬理・血液	54 ( 26)
7 中枢神経薬理	45 ( 26)
8 呼吸器薬理	13 ( 13)
9 腎薬理	11 ( 8)
10 消化器薬理	26 ( 20)
11 平滑筋薬理	4 ( 2)

12 骨・歯科薬理	5 ( 3)
13 内分泌薬理	6 ( 5)
14 臨床薬理	26 ( 23)
15 免疫薬理・炎症	20 ( 16)
16 化学療法	7 ( 4)
17 毒科学	13 ( 10)
18 Natural medicine materials	23 ( 23)
19 幹細胞薬理	4 ( 2)
20 疼痛薬理	9 ( 3)
21 生物製剤薬理	7 ( 6)
合計	502 (398)

2) 国別

CHINA 313, JAPAN 104, INDIA 8, IRAN 8, KOREA 7, TAIWAN 5, THAILAND 5, TURKEY 4, BRAZIL 3, MALAYSIA 3, MEXICO 3, NIGERIA 3, SWEDEN 3, IRAQ 2, ITALY 2, JORDAN 2, MACEDONIA 2, SAUDI ARABIA 2, SLOVAKIA 2, UNITED STATES 2, BANGLADESH 1, CANADA 1, CYPRUS 1, EGYPT 1, ETHIOPIA 1, FRANCE 1, GERMANY 1, GHANA 1, HONG KONG 1, ISLE OF MAN 1, KAZAKHSTAN 1, LIBYA 1, MOROCCO 1, PAKISTAN 1, PALESTINA 1, POLAND 1, RUSSIA 1, SERBIA 1, SUDAN 1

## 2. 採択率（投稿年別）

2009年 47%, 2010年 49%, 2011年 50%, 2012年 50%, 2013年 48%, 2014年 42%, 2015年 32%, 2016年 34%, 2017年 34%, 2018年 25%, 2019年 27%（国内論文 79%）

## 3. Impact Factor（Journal Citation Report JCR® 発表）

2008年：2.599, 2009年：2.176, 2010年：2.260, 2011年：2.082, 2012年：2.150, 2013年：2.114, 2014年：2.360, 2015年：2.106, 2016年：2.415, 2017年：2.575, 2018年：2.439（自然科学系 267 誌中 146 位）

## II. JPS 刊行状況：本資料の「事業報告」の項に記載

## III. JPS 審議・決定、報告事項

### 1. 編集体制について

国内編集委員（12名）

山田 清文, 稲垣 直樹, 上園 保仁, 大野 行弘, 黒川 洵子, 小林 真之, 笹栗 俊之, 田熊 一敏, 辻 稔, 西堀 正洋, 西山 成, 新田 淳美

海外編集委員（9名）

Lawrence, Andrew John; Suh, Yoo-Hun; Maurice, Tangui Nicolas; Wong, Peter Tsun-Hon; Xu, Qiang; Bhuiyan, Shenuarin; Han, Feng; Yoshimura, Naoki; Redegeld, Frank

### 2. JPS 優秀論文賞について

JPS優秀論文賞規定およびJPS優秀論文賞受賞論文選考規定に従って、平成28年度から平成30年度掲載分の原著論文の中から、第24回JPS優秀論文賞受賞論文2編を決定した。

・ Characterization and comparison of sodium-glucose cotransporter 2 inhibitors in pharmacokinetics, pharmacodynamics, and pharmacologic effects

Atsuo Tahara, Toshiyuki Takasu, Masanori Yokono, Masakazu Imamura, Eiji Kurosaki  
Vol. 130, No. 3 pp. 159-169 (2016)

・ Rosmarinic acid inhibits inflammation and angiogenesis of hepatocellular carcinoma by suppression of NF- $\kappa$ B signaling in H22 tumor-bearing mice

Wen Cao, Chao Hu, Lingling Wu, Liba Xu, Weizhe Jiang  
Vol. 132, No. 2 pp. 131-137 (2016)

### 3. JPS 優秀査読者賞について

JPS 優秀査読者賞規定およびJPS優秀査読者選考規定に従って、2019年度JPS優秀査読者5名を決定した。

- ・ Juei-Tang Cheng (Chang Jung Christian University)
- ・ Yuichi Hattori (University of Toyama)
- ・ Katsuya Hirano (Kagawa University)
- ・ Tsuyoshi Shuto (Kumamoto University)
- ・ Kazuhiro Takuma (Osaka University)

### 4. 国際情報発信強化の取組みについて

第93回日本薬理学会年会（横浜）において、JPSサテライトシンポジウムを企画する他、JPSブースを出展してJPSに関する広報活動を行い、国際情報発信力の強化を図る。

2018-2019 年度 Editor およびAdvisor の担当分野

Classifications		Editors	Advisors
01	Biogenic active substances	Yasuhito Uezono, Yukihiro Ohno, Junko Kurokawa, Toshiyuki Sasaguri, Kazuhiro Takuma, Masahiro Nishibori, Akira Nishiyama, Andrew Lawrence, Peter Wong, Naoki Inagaki, Tangui Maurice	Naohiko Anzai, Kumiko Ishige, Hitoshi Ishibashi, Susumu Ueno, Hiroshi Katsuki, Takashi Kanematsu, Naoko Kuzumaki, Junzo Kamei, Yutaka Koyama, Kazunao Kondo, Hikaru Tanaka, Hiroyuki Tanaka, Yoshio Tanaka, Makoto Tsuda, Kohji Fukunaga, Kinzo Matsumoto, Toshihiko Yanagita, Hye Sun Kim
02	Receptors / Channels / Transport systems	Yasuhito Uezono, Yukihiro Ohno, Junko Kurokawa, Masayuki Kobayashi, Kazuhiro Takuma, Minoru Tsuji, Masahiro Nishibori, Shenuarin Bhuiyan, Andrew Lawrence, Tangui Maurice, Peter Wong	Naohiko Anzai, Kumiko Ishige, Yoichiro Isohama, Hitoshi Ishibashi, Susumu Ueno, Shinya Uchida, Hiroshi Katsuki, Takashi Kanematsu, Naoko Kuzumaki, Junzo Kamei, Yutaka Koyama, Norio Sakai, Takeshi Takarada, Yasuo Takeda, Hikaru Tanaka, Yoshio Tanaka, Makoto Tsuda, Katsuya Hirano, Kinzo Matsumoto, Toshihiko Yanagita, Ross Bathgate, Alessandra Mallei, Laura Musazzi, Abdur Razzaque, Jutamaad Satayavivad, Nasir Uddin, Masaki Mogi, Yukio Ago
03	Intracellular signaling	Yasuhito Uezono, Toshiyuki Sasaguri, Kazuhiro Takuma, Atsumi Nitta, Feng Han, Tangui Maurice	Kumiko Ishige, Hitoshi Ishibashi, Hiroshi Katsuki, Takashi Kanematsu, Yasuo Kizawa, Junzo Kamei, Yutaka Koyama, Norio Sakai, Takeshi Takarada, Yasuo Takeda, Hikaru Tanaka, Makoto Tsuda, Katsuya Hirano, Kohji Fukunaga, Toshihiko Yanagita, Ross Bathgate, Jinsong Bian, Young Hae Chong, Hye Sun Kim, Ying-mei Lu, Alessandra Mallei, Laura Musazzi, Yuxian Shen, Bruno Vincent, Wen-Xia Zhou, Yukio Ago
04	Biochemical and Molecular pharmacology	Toshiyuki Sasaguri, Kazuhiro Takuma, Masahiro Nishibori, Atsumi Nitta, Shenuarin Bhuiyan, Tangui Maurice, Peter Wong	Kumiko Ishige, Shinya Uchida, Takashi Kanematsu, Yutaka Koyama, Hikaru Tanaka, Ross Bathgate, Young Hae Chong, Hye Sun Kim, Alessandra Mallei, Laura Musazzi, Abdur Razzaque, Yang Sun, Nasir Uddin, Masaki Mogi, Yukio Ago
05	Peripheral nervous system pharmacology	Yasuhito Uezono, Naoki Yoshimura	Hitoshi Ishibashi, Yoichiro Isohama, Junzo Kamei, Tadayoshi Takeuchi, Hikaru Tanaka, Yoshio Tanaka, Naoki Matsumoto, Toshihiko Yanagita
06	Cardiovascular pharmacology / Hematology	Junko Kurokawa, Toshiyuki Sasaguri, Masahiro Nishibori, Akira Nishiyama, Shenuarin Bhuiyan	Naohiko Anzai, Kazuo Umemura, Kazunao Kondo, Hikaru Tanaka, Yoshio Tanaka, Masato Tsutsui, Katsuya Hirano, Kohji Fukunaga, Naoki Matsumoto, Jinsong Bian, Abdur Razzaque, Jutamaad Satayavivad, Nasir Uddin, Masaki Mogi

07	Central nervous system pharmacology	Yasuhito Uezono, Yukihiro Ohno, Masayuki Kobayashi, Kazuhiro Takuma, Minoru Tsuji, Atsumi Nitta, Naoki Yoshimura, Feng Han, Andrew Lawrence, Tangui Maurice, Yoo-Hun Suh, Peter Wong	Hiroaki Araki, Kumiko Ishige, Hitoshi Ishibashi, Katsunori Iwasaki, Susumu Ueno, Hiroshi Katsuki, Naoko Kuzumaki, Junzo Kamei, Tsutomu Kotegawa, Yutaka Koyama, Norio Sakai, Toshiaki Sendo, Takeshi Takarada, Yasuo Takeda, Makoto Tsuda, Shogo Tokuyama, Kohji Fukunaga, Kinzo Matsumoto, Toshihiko Yanagita, Young Hae Chong, Hye Sun Kim, Ying-mei Lu, Alessandra Mallei, Laura Musazzi, Jutamaad Satayavivad, Yuxian Shen, Clare Parish, Bruno Vincent, Wen-Xia Zhou, Yukio Ago
08	Respiratory pharmacology	Naoki Inagaki, Kazuhiro Takuma	Yoshihiko Chiba, Yoichiro Isohama, Junzo Kamei, Yasuo Kizawa, Hiroyuki Tanaka, Naoki Matsumoto, Jutamaad Satayavivad, Hirokazu Mizoguchi
09	Renal pharmacology	Yukihiro Ohno, Toshiyuki Sasaguri, Akira Nishiyama, Shenuarin Bhuiyan	Hiroaki Araki, Naohiko Anzai, Toshiaki Sendo, Naoki Matsumoto, Tomoe Fujita, Abdur Razzaque, Nasir Uddin
10	Gastrointestinal pharmacology	Yasuhito Uezono	Jutamaad Satayavivad, Tadayoshi Takeuchi
11	Smooth muscle pharmacology	Toshiyuki Sasaguri, Naoki Yoshimura	Yasuo Kizawa, Tadayoshi Takeuchi, Hikaru Tanaka, Yoshio Tanaka, Katsuya Hirano
12	Bone and dental pharmacology	Masayuki Kobayashi, Toshiyuki Sasaguri, Kazuhiro Takuma	Keiichi Ohya, Takashi Kanematsu, Kinzo Matsumoto, Akifumi Togari, Masaki Mogi, Mitsuhiro Ohshima, Takeshi Takarada, Hiromasa Tsuda
13	Endocrine pharmacology	Akira Nishiyama, Govitrapong	Toshiyasu Sasaoka, Akifumi Togari, Shogo Tokuyama, Kohji Fukunaga, Toshihiko Yanagita, Ross Bathgate
14	Clinical pharmacology	Toshiyuki Sasaguri, Masayuki Kobayashi, Kiyofumi Yamada	Hiroaki Araki, Naohiko Anzai, Shinya Uchida, Kazuo Umemura, Tsutomu Kotegawa, Kazunao Kondo, Toshiaki Sendo, Yasuo Takeda, Shogo Tokuyama, Masahiro Tsuboi, Tomoe Fujita, Naoki Matsumoto
15	Immunopharmacology / Inflammation	Naoki Inagaki, Toshiyuki Sasaguri, Masahiro Nishibori, Qiang Xu	Hiroyuki Tanaka, Young Hae Chong, Yuxian Shen, Yang Sun, Yuichi Hattori
16	Chemotherapy	Yasuhito Uezono, Toshiyuki Sasaguri	Yasuo Takeda, Masahiro Tsuboi, Yang Sun
17	Toxicology	Yukihiro Ohno, Junko Kurokawa, Kazuhiro Takuma, Feng Han	Susumu Ueno, Ying-mei Lu, Jutamaad Satayavivad, Wen-Xia Zhou
18	Natural Medicine Materials	Naoki Inagaki, Yasuhito Uezono, Toshiyuki Sasaguri, Minoru Tsuji, Feng Han	Yoichiro Isohama, Katsunori Iwasaki, Masahiro Tsuboi, Kinzo Matsumoto, Ying-mei Lu, Jutamaad Satayavivad, Wen-Xia Zhou
19	Stem cell pharmacology	Junko Kurokawa, Shenuarin Bhuiyan, Yoo-Hun Suh	Takeshi Takarada, Abdur Razzaque, Nasir Uddin
20	Pain pharmacology	Yasuhito Uezono, Masayuki Kobayashi, Minoru Tsuji, Feng Han	Junzo Kamei, Makoto Tsuda, Ying-mei Lu, Wen-Xia Zhou, Hirokazu Mizoguchi
21	Biopharmaceutical pharmacology	Naoki Yoshimura, Feng Han, Shenuarin Bhuiyan	Ying-mei Lu, Abdur Razzaque, Nasir Uddin, Wen-Xia Zhou



## 広報委員会報告

委員長（会誌編集長）：金子 周司

委員：天野 託，石井 邦明，石毛久美子，石澤 啓介，吉川 公平，佐藤 薫，永井 拓，原 英彰，古屋敷智之，宮田 篤郎，山田 久陽

2019年3月16日大阪にて委員会を開催した。また、その後に適宜、メール回議にて方針を議論した。

### 1. 日薬理誌の新発行体制について

現在の薬理学会の財政状況ではこれまでと同様の形態での日薬理誌冊子体の発行が難しいため、経費削減の方策の一つとして発行の隔月化を決定した。隔月発行とする場合でも掲載内容を半減させるだけではなく、将来的な方向性も見据え電子出版への移行を導入することとした。議論の結果、2020年1月号より以下の方針で新しく発行することになり、執筆の手引きも併せて改訂した。

- J-STAGEでのPDF電子出版を主体として、冊子体はサブの扱いとすること
- 電子出版および冊子体の発行は奇数月の隔月刊とすること
- 会員にPDFへアクセスできる同一アカウントを配布することによってPDFを冊子体と同時に公開する一方、学術記事の一般公開は1年後とすること
- 新薬紹介総説はこれまでと同程度の掲載数を維持し、Open Access (CC-BY)としてPDFと冊子体を同時に一般公開とすること
- PDFにはカラー図表を推奨する一方、冊子体では白黒印刷とすること。また、冊子体にカラー印刷を希望する場合は有料とすること
- PDFでは補足図表を積極的に活用すること

### 2. ホームページの全面改訂と維持体制の変更について

今後、学会のホームページが全面改訂され、それに伴い、現在委託業者4社が関わっているホームページの維持体制を1社にまとめることにした。改訂作業は2020年から開始されている。委託業者はデザインを担当し、コンテンツの作成や更新は学会事務局で行われる。また、従来のスタイルでの学会ホームページでの情報発信に加え、コンテンツによっては、メーリングリストやTwitterなど、より速報性のあるメディアの利用も検討することとする。

## 企画教育委員会報告

委員長：池谷 裕二

委員：上園 保仁，大矢 進，金井 好克，木内 祐二，久米 利明，五嶋 良郎，谷村 明彦，柳田 俊彦，矢部 千尋

委員会を2回開催し、所管事項について検討を行った。

### 1. 新学術評議員選考の件

新学術評議員選考規定に照らし、令和2年度に就任する新学術評議員申請者44名について申請書および業績目録等に基づき審査を行った。うち39名は要件を満たしており、学術評議員候補者として選定した。残りの5名についても、新学術評議員選考規定第6条による特例措置を適用して候補者とした。以上44名の候補者について、理事会および学術評議員会に諮ることとした。

### 2. 薬理学エドゥケーター選考の件

薬理学エドゥケーター選考規定に照らし、令和2年に就任する申請者404名について申請書および教育実績や業績等に基づき審査を行った。404名の全申請者が要件を満たしていたため薬理学エドゥケーター候補者として選定した。同候補者について理事会に諮ったところ、全404名の認定が承認された。令和2年1月の認定開始とする薬理学エドゥケーター認定証を発行した。

### 3. 看護薬理学教育への取組み

令和2年3月18日に行われる看護薬理学カンファレンスおよびその内容の一部が、助産実践能力評価制度 CLoCMiPの申請用または更新用のポイントとして計上されることが認定された。

## 賞等選考委員会報告

委員長：西堀 正洋

委員：上園 保仁，吉川 公平，戸村 裕一，西 昭徳，古屋敷智之，南 雅文，山田 清文，若森 実

委員会を1回開催し，以下について審議した。

### 1. 第35回（令和2年度）学術奨励賞

受賞候補者の選考について「賞等選考委員会規定」，「学術奨励賞規定」，「学術奨励賞受賞者選考規定」を確認した。

さらに，推薦者の評価方法について確認した。次いで，候補者8名の推薦書について，「薬理学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し，将来発展の期待される研究者に対し授与する」（学術奨励賞規定第2条から抜粋）に基づく観点により，事前に全委員が審査した評価をもとに，本委員会ではそれらを多角的に分析し，本賞の趣旨，特に，学術奨励賞規定にある「研究業績はその主要な部分が日本国内で行われたものに限る」こと，および，「薬理学会への貢献度」を踏まえ，評価上位3名を受賞候補者とすることを決定し，北岡志保氏，出山諭司氏，中村達朗氏を第35回（令和2年度）学術奨励賞の受賞候補者として，選考の経過とともに理事長に答申した。

それぞれの候補者の研究課題は，以下のとおりである。

北岡 志保（神戸大学 大学院医学研究科・講師）

『精神・神経変性疾患の病態形成に関与する脳内炎症および疾患モデル細胞を用いた創薬に関する研究』

出山 諭司（金沢大学 医薬保健研究域薬学系 薬理学・助教）

『レゾルビン類の抗うつ作用の機序解明と創薬応用に向けた薬理学的研究』

中村 達朗（東京大学 大学院農学生命科学研究科・特任助教）

『食物アレルギーにおけるPGD<sub>2</sub>の役割解明と治療、診断への応用』

### 2. 令和2年度薬理学振興助成事業の選考について

申請があった下記の8件について審査の結果，本委員会は全ての申請を採択する旨理事会に答申した。

- |                                     |                       |
|-------------------------------------|-----------------------|
| 1) 次世代薬理学セミナー（2開催分）                 | 504,000 円：研究推進委員会申請   |
| 2) 市民公開講座（3開催分）                     | 1,200,000 円：広報委員会申請   |
| 3) ダイバーシティ推進ランチョンセミナー2020           | 400,000 円：ダイバーシティ推進担当 |
| 4) 看護薬理カンファレンス 2020（2開催分）           | 1,000,000 円：企画教育委員会申請 |
| 5) 臨床医のための薬理学シンポジウム                 | 490,000 円：第93回年会申請    |
| 6) アカデミア創薬のためのレギュラトリーサイエンスセミナー      | 300,000 円：第93回年会申請    |
| 7) 若手研究者キャリア支援プログラム                 | 550,000 円：第93回年会申請    |
| 8) 「医学と医療における日本の薬理学の貢献（仮題）」パンフレット作製 | 350,000 円：研究推進委員会申請   |

### 3. 各種助成団体等への本会としての推薦

- ・第60回東レ科学技術賞：1名を学会推薦
- ・第1回小林賞：1名を学会推薦

## 年会学術企画委員会報告

委員長：石毛久美子

委員：池谷 裕二，大矢 進，木内 祐二，戸村 裕一，西山 成，宮田 篤郎，渡邊 裕司

オブザーバー：金井 好克（第92回年会長），五嶋 良郎（第93回年会長），吉岡 充弘（第94回年会長）

委員会を2回開催し，以下の件について，報告・審議した。

### 第92回年会について

金井年会長より詳細な終了報告がなされた。

### 第93回年会について

1. 五嶋年会長より，企画案が説明され，提示されたとおりに了承された。年会のテーマは「薬理学を一つの舞台に－Bidirectional talk between bench and bedside－」であり，内容として，プレナリーレクチャー（1枠），特別講演（10枠），JPS-ASCEPT Lecture（1枠），各種シンポジウム・ワークショップ，一般演題（口頭・ポスター），学生セッションなどが示された。

## 2. 年会企画シンポジウム

年会企画シンポジウムとして、以下の2テーマが企画された（順不同）。

- ・大規模医療データベースを活用した臨床疫学研究による医療や薬剤の評価
- ・薬理学研究における臨床ビッグデータの活用：仮説検証からドラッグリポジショニングまで

## 3. 他学会等との共催シンポジウムについて

他学会等との共催シンポジウムは以下の通りである（順不同）。

- ・中国薬理学会共催シンポジウム  
Current Status of Pharmacological Research in Japan and China
- ・日本医学会連合加盟学会連携フォーラム  
脳深部刺激（DBS）：機能的脳外科領域における解剖・生理・薬理学連携と若手研究者育成
- ・日本薬理学会・日本生理学会共催シンポジウム  
精神疾患メカニズム解明に向けた多角的アプローチ～細胞からヒトまで俯瞰して～
- ・日本薬理学会・日本臨床薬理学会共催シンポジウム  
薬理と臨床薬理とを1つの舞台に
- ・日本薬理学会・日本臨床疫学会共催シンポジウム  
大規模医療データベースを活用した臨床疫学研究による医療や薬剤の評価
- ・日本薬理学会・日本実験動物技術者協会共催シンポジウム  
薬理学研究・実習における動物実験技法の継承にむけて

## 4. 公募シンポジウムについて

公募シンポジウムの応募（7月5日締切）に対し、委員会でオブザーバーを交えて、学術的なレベル、新規性、話題性、分野の偏りや重複など様々な角度から審議し、採否を決定した。また、その中に企業からの発案案件がなかったため、企業から追加公募することとした。

## 江橋賞選考委員会報告

委員長：赤池 昭紀

委員：大隅 典子，栗原 敏，祖父江 元，米田 悦啓，和田 圭司（以上学会外委員）

赤羽 悟美，今泉 祐治，中谷 晴昭，吉岡 充弘

第13回江橋賞候補者選定のための委員会を11月8日に開催した。

### 1. 第13回江橋節郎賞候補者選考経過について

- ・第13回江橋節郎賞の候補者は3名であった。
- ・事前評価は、委員長を除く委員全員で3名の候補者の研究を i) 独創性， ii) 世界から見た位置づけ， iii) 当該分野に与えた影響度， iv) 研究の流れ・今後の発展性， の4項目について、学会内委員は、 v) 薬理学への貢献を加えた5項目についてそれぞれ10点満点で評価を行ったが、評価結果は本選考において参考とすることとした。
- ・学会内委員による各候補者紹介の後、評価項目について意見交換を行った。
- ・候補者の決定は投票によることとし、意見交換の後、議長を除く出席者8名で無記名投票を行い、投票数の3分の2以上を得票した東京大学大学院医学系研究科・教授の尾藤 晴彦氏を、第13回江橋節郎賞受賞候補者として理事長に推薦することを決定した。

候補者の研究テーマ：『シナプスと核を結ぶ活動依存的神経可塑性メカニズムの解明と可視化』

### 2. 受賞候補者の研究について

尾藤候補は、シナプスから核、核からシナプスに至る情報伝達経路を研究し、活動依存的神経可塑性のメカニズムを解明し、細胞レベルのエンGRAMイメージングに展開した。Arc 転写可塑性とシナプス可塑性との間の両方向性機能連関の発見のみならず、研究の過程で見出したゲノム・蛋白の構造モジュールを活用して神経可塑性・神経活動のイメージングプローブを開発し、生きた脳での高速・多細胞種計測を実現した。神経回路研究を飛躍的に発展させ、今後も更なる発展が期待される。

### 3. 江橋賞候補者の募集について

薬理学の広い専門分野から、研究の発展と活躍が期待できる受賞候補者を選出できるように、薬理学をテーマ別（例えば、1) 基礎、と 2) トランスレーショナルリサーチ・応用）に分類し、毎年、募集要項にその年の募集テーマを提示して募集すること、募集テーマは一定の期間でローテートする募集方式を次回の選考から採用するよう理事会に提案することを決定した。

## 国際対応委員会報告

委員長：飯野 正光

委員：吉岡 充弘（副委員長），赤羽 悟美，安西 尚彦，池谷 裕二，金井 好克，廣瀬 謙造

顧問：三品 昌美

2019年3月15日に本委員会と日本学術会議 IUPHAR 分科会との合同会議を開催した他、随時メールによる報告および審議を行った。

1. 第22回日韓薬理合同セミナーが、3月16日に第92回年会（金井年会長，大阪市）に合わせて開催された。特別講演2題，講演15題，ポスター13題の発表が行われた。
2. 第7回日中薬理学・臨床薬理学シンポジウムが、8月4日に昆明市で開催された。シンポジウム2題（計8演題）のほか，若手講演12題，ポスター34題の発表が行われた。日本からは29名（随伴者を入れて35名）の登録参加があった。
3. ASPET との講師交換プログラムとして，金井好克教授（大阪大学）をEB2020（2020年4月4日～8日，サンディエゴ市）に派遣する。
4. ASCEPT との交流では，ASCEPT 年会（2019年11月25日～29日，Queenstown, New Zealand）へ池谷裕二教授（東京大学）を交換講師として派遣した。また，第93回日本薬理学会年会（五嶋年会長，横浜市）へ，ASCEPT から Dr. Denise Wootten（Monash 大学）を講師として招聘する。
5. APFP 2020 が，2020年5月4日～7日に台北市（台湾）で開催される。昨年度，日本から講演者の推薦を行った結果，10名の招待講演者が選出されている。
6. BPS との交流では，2020年12月開催のBPS 年会でJPS-BPS ジョイントシンポジウムを開催する予定にしており，木村理事が企画を担当している。
7. IUPHAR との連携：IUPHAR 事務局は，新たな意思決定を行う仕組みを構築するためにガバナンスレビューを実施しており，本会へ協力要請が来ている。金井 IUPHAR 次席副会長と連携しながら理事会で対応を検討する。

### 【ダイバーシティの取組み報告】

ダイバーシティ推進担当理事：石毛久美子

第93回年会におけるダイバーシティ企画シンポジウムについて

第93回年会会期中の2020年3月18日に「世代間ギャップ」をキーワードにランチョンセミナーを開催する。世代間ギャップは，第92回年会のダイバーシティ企画シンポジウムに関するアンケートで複数の会員から，今後取り上げてほしいテーマとして希望のあった内容である。本セミナーでは，4名の研究者に世代間ギャップに関して日頃感じていること等をご紹介いただき，参加者とともに考える機会とする。

### 【次世代の会活動報告】

代表：大久保 洋平（関東）

委員：北 部 会：小原祐太郎，野村 洋，矢吹 悌

関東部会：井手聡一郎，小菅 康弘，小山 隆太，林 良憲，藤田 智史，宮川 和也，村田 幸久

近畿部会：大垣 隆一，白川 久志，鈴木 良明，タムケオ ディーン，永井 拓，橋川 成美

西南部会：塩田 倫史，清水 孝洋，山下 智大

2019年3月15日に委員会を開催し，随時メール会議を行った。

1. 「次世代薬理学セミナー」を関東部会（東京）と西南部会（那覇）において併催した。  
次世代薬理学セミナー 2019 in 東京  
「細胞ごとに切り込む最先端脳研究」 オーガナイザー：小山 隆太（東京大学）  
次世代薬理学セミナー 2019 in 那覇  
「異分野研究による神経薬理学のパラダイム・シフト」 オーガナイザー：塩田 倫史（熊本大学）
2. 第93回年会においてシンポジウムを2題，モーニングセミナーを3題企画。また「若手研究者キャリア形成支援プログラム」（学生セッション，キャリア形成セミナー，交流会）を企画運営した。
3. より多くの薬理学会会員の次世代の会への参画を促すべく，立候補制を骨子とした新委員制度を立案し，理事会より承認を受けた。2020年度中に2021年度就任委員の立候補受付を開始する予定である。
4. 引き続き次世代の会ホームページ (<http://angesjps.umin.jp>)にて活動実績等を紹介している。

# XI. 新学術評議員候補者一覧

2020年度(44名)

※候補者氏名五十音順

番号	候補者氏名	現職	会員歴(年)	主な研究領域	発表論文総数(原著論文数)	本学会 学術集会 発表総数	雑誌 掲載 総数	推薦学術 評議員氏名
1	青木 友浩	国立循環器病研究センター研究所 分子薬理部 室長	10	心血管薬理	136 (56)	9	4	古屋敷智之
2	阿部 直道	田辺三菱製薬株式会社 創薬本部 フロンティア創薬ユニット 副主任研究員	10	その他(医薬品 候補化合物の薬 理学的評価, 病 態モデル構築)	7 (7)	1	1	吉川 公平
3	有竹 浩介	第一薬科大学薬学部 薬品作用学 教授	13	免疫薬理・炎症	83 (83)	20	3	清水 典史
4	今井 哲司	京都大学医学部附属病院 薬剤部 講師	11	末梢神経薬理	71 (63)	15 (2015以降)	1	中川 貴之
5	岩佐 健介	埼玉医科大学医学部 薬理学 助手	7	中枢神経薬理	5 (5)	8	0	丸山 敬
6	上原 吉就	福岡大学スポーツ科学部 スポーツ内科学 教授	13	心血管薬理	244 (107)	4	0	岩本 隆宏
7	尾花 理徳	大阪大学大学院薬学研究科 臨床薬効解析学 助教	5	腎薬理	23 (22)	40	1	藤尾 慈
8	笠原 二郎	徳島大学大学院医歯薬学研究部 (薬学域) 神経病態解析学 准教授	22	中枢神経薬理	45 (42)	13	1	土屋浩一郎
9	神林 隆一	東邦大学医学部 薬理学 有期助教	6	心血管薬理	10 (10)	19	4	杉山 篤
10	木下 千智	帝京大学医学部 薬理学 助教	11	中枢神経薬理	13 (9)	11	0	青山 晃治
11	清井 武志	愛媛大学 学術支援センター 技術専門職員	9	免疫薬理・炎症	17 (15)	18	3	劉 爽
12	京谷 陽司	奈良県立医科大学医学部 薬理学 助教	12	平滑筋薬理	20 (9)	11	6	吉栖 正典
13	國澤 直史	大阪薬科大学薬学部 薬品作用解析学 助教	7	中枢神経薬理	13 (11)	12	2	大野 行弘
14	郡山 恵樹	鈴鹿医療科学大学薬学部 薬理・薬物動態学 准教授	9	中枢神経薬理	72 (64)	3	4	原 英彰
15	酒井 大樹	山口大学大学院医学系研究科 薬理学 助教	9	細胞内情報伝 達	11 (11)	10	0	倉増 敦朗

番号	候補者氏名	現職	会員歴 (年)	主な研究領域	発表論文総数 (原著論文数)	本学会 学術集会 発表総数	雑誌 掲載 総数	推薦学術 評議員氏名
16	佐々木拓哉	東京大学大学院薬学系研究科 薬品作用学 助教	14	中枢神経薬理	83 (61)	29	10	池谷 裕二
17	関 健二郎	奥羽大学薬学部 薬理学 准教授	7	中枢神経薬理	24 (20)	11	0	西屋 禎
18	高崎 一郎	富山大学工学部 生体情報薬理学 准教授	21	中枢神経薬理	85 (84)	20	6	宮田 篤郎
19	高杉 展正	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 薬効解析学 准教授	8	中枢神経薬理	17 (17)	8	0	上原 孝
20	趙 晶	奈良県立医科大学医学部 薬理学 助教	5	心血管薬理	18 (16)	9	6	吉栖 正典
21	寺田 侑加	神戸学院大学薬学部 循環器薬理学 助手	8	心血管薬理	13 (12)	6	1	屋山 勝俊
22	徳留健太郎	大阪市立大学大学院医学研究科 分子病態薬理学 助教	8	中枢神経薬理	14 (2)	20	1	富田 修平
23	富田 拓郎	信州大学医学部 分子薬理学 准教授	7	受容体・チャネル・輸送系	34 (25)	4	0	山田 充彦
24	西谷(中村)友重	国立循環器病研究センター研究所 心臓生理機能部 室長	5	心血管薬理	45 (41)	0	0	赤羽 悟美
25	濱村 和紀	愛知学院大学歯学部 薬理学 准教授	5	骨・歯科薬理	73 (57)	4	1	戸苅 彰史
26	原 雄二	京都大学大学院工学研究科 合成・生物化学 准教授	8	受容体・チャネル・輸送系	37 (33)	2	1	森 泰生
27	東 洋一郎	高知大学医学部 薬理学 助教	5	中枢神経薬理	55 (55)	49	3	齊藤 源頭
28	日比(古川)陽子	名古屋市立大学大学院医学研究科 高度医療教育研究センター 准教授	13	中枢神経薬理	40 (32)	7	0	山田 清文
29	真崎 雄一	北海道大学大学院医学研究院 細胞薬理学 講師	5	細胞内情報伝達	37 (32)	7	3	大村 優
30	松村 暢子	帝京大学医学部 薬理学 助教	21	中枢神経薬理	14 (5)	21	0	青山 晃治
31	村瀬 真一	国際医療福祉大学医学部 薬理学 教授	13	受容体・チャネル・輸送系	28 (26)	33	1	谷浦 秀夫

番号	候補者氏名	現職	会員歴 (年)	主な研究領域	発表論文総数 (原著論文数)	本学会 学術集会 発表総数	雑誌 掲載 総数	推薦学術 評議員氏名
32	森村 浩三	田辺三菱製薬株式会社 創薬本部神経科学創薬ユニット 研究員	19	受容体・チャネ ル・輸送系	6 (2)	6	1	吉川 公平
33	矢野 耕史	塩野義製薬株式会社 医薬研究本部創薬疾患研究所 研究員	13	中枢神経薬理	12 (11)	13	1	吾郷由希夫
34	山口 智和	秋田大学大学院医学系研究科 分子機能学・代謝機能学 助教	6	心血管薬理	8 (7)	6	0	久場 敬司
35	山本 梓司	埼玉医科大学保健医療学部 臨床検査学科/医学部薬理学 兼担助教	7	中枢神経薬理	7 (7)	5	0	鈴木 正彦
36	吉川 圭介	埼玉医科大学医学部 薬理学 講師	9	中枢神経薬理	29 (23)	15	0	丸山 敬
37	善積 克	東北医科薬科大学薬学部 機能形態学 講師	16	中枢神経薬理	17 (17)	5	0	渡辺千寿子
38	和久田浩一	大分大学医学部 臨床薬理学 助教	12	臨床薬理	28 (24)	10	2	大谷 直由
39	王 登莉	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 薬理学 助教	6	中枢神経薬理	10 (10)	11	1	西堀 正洋

#### 特例措置

番号	候補者氏名	現職	会員歴 (年)	主な研究領域	発表論文総数 (原著論文数)	本学会 学術集会 発表総数	雑誌 掲載 総数	推薦学術 評議員氏名
40	朝霧 成挙	山口大学大学院医学系研究科 薬理学 教授	1	免疫薬理・炎症	39 (37)	0	0	山村 寿男
41	武井 義則	東邦大学医学部 細胞治療学 教授 (寄付講座)	1	細胞内情報伝 達	32 (29)	1	0	杉山 篤
42	中川 崇	富山大学学術研究部医学系 分子医科薬理学 教授	1	生化学薬理	32 (21)	1	0	新田 淳美
43	西 英一郎	滋賀医科大学医学部医学科 薬理学 教授	4	心血管薬理	81 (61)	4	0	中邨 智之
44	平島 正則	新潟大学大学院医歯学総合研究科 薬理学 教授	1	生理活性物質	49 (44)	1	0	谷内 一彦

## XII. 薬理学エデュケーター認定者一覧 (404名)

(認定期間：令和2年1月1日～令和6年12月31日)

相澤 直樹	獨協医科大学	入江 康至	岡山県立大学
青野 悠里	日本大学	岩井 信市	昭和大学
青山 晃治	帝京大学	岩城 孝行	浜松医科大学
赤池 昭紀	和歌山県立医科大学	岩崎 克典	福岡大学
赤木 宏行	広島国際大学	岩瀬万里子	昭和大学
赤羽 悟美	東邦大学	岩田 和実	京都府立医科大学
吾郷由希夫	大阪大学	岩本 隆宏	福岡大学
浅井 将	横浜薬科大学	位田 雅俊	岐阜薬科大学
浅沼 幹人	岡山大学	上園 保仁	国立がん研究センター研究所
朝日 通雄	大阪医科大学	植田 弘師	京都大学
東 泰孝	大阪府立大学	上原 孝	岡山大学
阿部陽一郎	慶應義塾大学	上山 健彦	神戸大学
天ヶ瀬紀久子	立命館大学	宇高 結子	昭和大学
天野 大樹	北海道大学	内田 幸介	獨協医科大学
天野 託	国際医療福祉大学	内田 直樹	昭和大学
天野 英樹	北里大学	宇野 恭介	摂南大学
天野 均	東京医科歯科大学	江頭 伸昭	九州大学
安東賢太郎	千葉科学大学	大井 義明	愛知学院大学
安東 嗣修	富山大学	大池 正宏	九州大学
飯塚 健治	北海道医療大学	大浦 清	太成学院大学
飯野 正光	日本大学	大垣 隆一	大阪大学
池谷 裕二	東京大学	大久保つや子	福岡看護大学
池田 和隆	(公財)東京都医学総合研究所	大久保洋平	東京大学
池田 弘子	星薬科大学	太田 有紀	聖マリアンナ医科大学
池田 正浩	宮崎大学	大谷ひとみ	関西医科大学
池田 康将	徳島大学	大西 克典	久留米大学
池田 龍二	宮崎大学	大浜 剛	山口大学
池本 和久	藤田医科大学	大原 直樹	金城学院大学
石井 邦雄	横浜薬科大学	大室 弘美	武蔵野大学
石井 利明	帯広畜産大学	大矢 進	名古屋市立大学
石川 智久	静岡県立大学	岡田尚志郎	愛知医科大学
石毛久美子	日本大学	岡村 富夫	滋賀医科大学
石澤 啓介	徳島大学	岡村 信行	東北医科薬科大学
石澤 有紀	徳島大学	岡元 邦彰	岡山大学
石塚 俊晶	防衛医科大学校	荻原 政彦	城西大学
石橋 隆治	金沢医科大学	奥田 傑	大阪大学
石原 熊寿	広島国際大学	小口江美子	昭和大学
石原 康宏	広島大学	小坂田文隆	名古屋大学
石丸 侑希	摂南大学	尾崎 昌宣	新潟薬科大学
泉 安彦	神戸薬科大学	小澤光一郎	広島大学
出雲 信夫	横浜薬科大学	乙黒 兼一	北海道大学
一瀬 千穂	藤田医科大学	小原祐太郎	山形大学
糸魚川政孝	東海学園大学	小山田英人	昭和大学
伊藤 政明	高崎健康福祉大学	甲斐 広文	熊本大学
伊藤 雅方	東邦大学	柿澤 昌	京都大学
伊藤 芳久	横浜薬科大学	籠田 智美	武庫川女子大学
稲野辺 厚	大阪大学	梶岡 俊一	九州大学
乾 誠	YIC リハビリテーション大学校	勝山 真人	京都府立医科大学
衣斐 督和	京都府立医科大学	桂 昌司	明治国際医療大学
今村 武史	鳥取大学	加藤 総夫	東京慈恵会医科大学



金井 好克	大阪大学	小渊 修平	兵庫医療大学
金子 周司	京都大学	小松浩一郎	鶴見大学
金子 雪子	静岡県立大学	小山 豊	神戸薬科大学
金田 剛治	日本獣生命科学大学	小山 隆太	東京大学
神沼 修	広島大学	近藤 一直	藤田保健衛生大学
蒲生 修治	九州保健福祉大学	雑賀 史浩	和歌山県立医科大学
川畑 篤史	近畿大学	三枝 禎	日本大学
川畑伊知郎	東北大学	斉藤 麻希	岩手医科大学
川原 浩一	新潟薬科大学	斎藤 将樹	東北大学
河原 博	鶴見大学	齊藤 源顕	高知大学
河原 幸江	久留米大学	佐伯万騎男	新潟大学
川村 将仁	東京慈恵会医科大学	坂井 敦	日本医科大学
諫田 泰成	国立医薬品食品衛生研究所	酒井 規雄	広島大学
菅野 秀一	東北医科薬科大学	酒井 寛泰	星薬科大学
木内 祐二	昭和大学	坂梨まゆ子	金城学院大学
木口 倫一	和歌山県立医科大学	阪本 英二	国立循環器病研究センター研究所
木澤 靖夫	日本大学	坂本 多穂	静岡県立大学
喜多紗斗美	徳島文理大学	坂本 謙司	帝京大学
喜多 大三	摂南大学	相良 英憲	松山大学
北市 清幸	岐阜薬科大学	笹栗 俊之	九州大学
北岡 志保	神戸大学	佐藤 久美	北海道薬科大学
北中 純一	兵庫医科大学	佐藤 晃一	山口大学
北中 順恵	兵庫医科大学	佐藤 岳哉	東北大学
北村 佳久	立命館大学	佐藤 友昭	鹿児島大学
吉川 公平	田辺三菱製薬(株)	佐藤 光利	明治薬科大学
鬼頭 宏彰	名古屋市立大学	澤木 康平	横浜薬科大学
鬼頭 佳彦	佐賀大学	三部 篤	岩手医科大学
木村 郁子	富山短期大学	繁富 英治	山梨大学
木村 和哲	名古屋市立大学	篠崎 陽一	山梨大学
木村 元気	日本大学	篠田 康晴	東北大学
木村 光利	城西大学	芝崎 真裕	星薬科大学
金 徳男	大阪医科大学	柴田 佳太	昭和大学
葛巻 直子	星薬科大学	島添 隆雄	九州大学
久米 利明	富山大学	清水 俊一	帝京平成大学
倉内 祐樹	熊本大学	清水 翔吾	高知大学
倉田 知光	昭和大学	清水 孝洋	高知大学
倉増 敦朗	山口大学	首藤 隆秀	久留米大学
倉本 展行	摂南大学	首藤 剛	熊本大学
栗原 崇	鹿児島大学	城野 博史	熊本大学
呉林なごみ	順天堂大学	白川 久志	京都大学
黒岩真帆美	久留米大学	新谷 紀人	大阪大学
黒川 和宏	国際医療福祉大学	杉山 篤	東邦大学
黒瀬 等	九州大学	鈴木 岳之	慶應義塾大学
小泉 修一	山梨大学	鈴木 勉	星薬科大学
小嶋 純	日本大学	鈴木 秀典	日本医科大学
小島 史章	北里大学	鈴木 正彦	埼玉医科大学
五嶋 良郎	横浜市立大学	鈴木 康裕	奥羽大学
小菅 康弘	日本大学	鈴木 良明	名古屋市立大学
小林 広幸	東海大学	関 貴弘	熊本大学
小林 真之	日本大学	瀬谷 和彦	弘前大学
小林 裕太	島根大学	千本松孝明	埼玉医科大学
小原 幸	京都薬科大学	十川 千春	岡山大学

十川 紀夫	松本歯科大学	永倉 透記	国際医療福祉大学
高井 真司	大阪医科大学	永澤 悦伸	東邦大学
高木 教夫	東京薬科大学	中瀬古寛子	東邦大学
田頭 秀章	福岡大学	仲田 義啓	広島大学
高田 和幸	京都薬科大学	中谷 善彦	国際医療福祉大学
高田 龍平	東京大学	中野 大介	香川大学
高取 真吾	松山大学	長野 貴之	九州保健福祉大学
高鳥 悠記	同志社女子大学	中村 一基	武庫川女子大学
高橋 俊介	神奈川歯科大学	中村 正帆	東北医科薬科大学
高橋 英夫	近畿大学	永森 收志	奈良県立医科大学
高橋 富美	産業医科大学	中山 貢一	静岡県立大学
高濱 和夫	熊本保健科学大学	奈邊 健	摂南大学
高原 章	東邦大学	並木 繁行	東京大学
田熊 一徹	大阪大学	行方衣由紀	東邦大学
竹之内康広	川崎医科大学	成田 年	星薬科大学
武半 優子	聖マリアンナ医科大学	西 昭徳	久留米大学
武谷 立	宮崎大学	西 晴久	東京慈恵会医科大学
田島 雅道	明海大学	西川 恵三	大阪大学
田中 邦彦	長崎大学	西中 崇	近畿大学
田中 健一	埼玉県立大学	西堀 正洋	岡山大学
田中 康一	兵庫医療大学	西村 周泰	京都薬科大学
田中 智之	京都薬科大学	西村 有平	三重大学
田中 茂	広島大学	西村 有希	昭和大学
田中 光	東邦大学	西屋 禎	奥羽大学
田中 宏幸	岐阜薬科大学	西山 成	香川大学
田中 政巳	東都医療大学	新田 淳美	富山大学
田邊 由幸	横浜薬科大学	日塔 武彰	横浜薬科大学
谷口 泰造	甲南大学	根津 顕弘	北海道医療大学
谷村 明彦	北海道医療大学	根本 隆行	福岡大学
田野中浩一	東京薬科大学	野口 克彦	琉球大学
田渕 正樹	園田学園女子大学	能勢 高志	日本たばこ産業(株)
田村 和広	東京薬科大学	野部 浩司	昭和大学
田村 幸彦	東京医科歯科大学	野部 裕美	文京学院大学
田村 豊	福山大学	野村 隆英	愛知みずほ大学
田和 正志	金沢医科大学	野村 洋	北海道大学
丹野 孝一	東北医科薬科大学	橋川 成美	岡山理科大学
塚原富士子	東京女子医科大学	橋本 光正	昭和大学
辻 まゆみ	昭和大学	橋本 均	大阪大学
筒井 正人	琉球大学	長谷川仁美	日本医療機能評価機構
恒枝 宏史	富山大学	波多野紀行	愛知学院大学
鶴間 一寛	(株)カン研究所	服部 裕一	北海道医療大学
勅使川原匡	岡山大学	濱口 正悟	東邦大学
出山 義昭	ポプラアベニュー歯科クリニック	林 崇	国立精神・神経医療研究センター
鳥羽 裕恵	京都薬科大学	林 秀樹	東京薬科大学
土肥 敏博	広島文化学園大学	原 明義	東北医科薬科大学
富田 修平	大阪市立大学	尾藤 晴彦	東京大学
富田太一郎	東邦大学	檜井 栄一	岐阜薬科大学
豊平由美子	産業医科大学	日比野 浩	新潟大学
内藤 一秋	シミックホールディングス(株)	平野 勝也	香川大学
内藤由紀子	北里大学	弘瀬 雅教	岩手医科大学
永井 拓	名古屋大学	黄 洋一	昭和大学
中川西 修	東北医科薬科大学	福井 裕行	徳島大学

福石 信之	金城学院大学	守屋 孝洋	奥羽大学
福永 浩司	東北大学	八百板富紀枝	東北医科薬科大学
藤井 正徳	京都薬科大学	保田 晶子	ライフガーデン中央クリニック
藤田 智史	日本大学	谷内 一彦	東北大学
藤田 朋恵	獨協医科大学	柳川 芳毅	北海道医療大学
藤野 裕道	徳島大学	柳田 俊彦	宮崎大学
藤原 博典	医療創生大学	柳原 延章	九州栄養福祉大学
古川 賢一	弘前大学	柳瀬 雄輝	広島大学
古屋敷智之	神戸大学	矢吹 悌	熊本大学
外村 和也	浜松医科大学	矢部 千尋	京都府立医科大学
細野加奈子	北里大学	山形 要人	(公財)東京都医学総合研究所
堀 誠治	東京慈恵会医科大学	山口 拓	長崎国際大学
堀之内孝広	北海道大学	山口 太郎	摂南大学
堀ノ内裕也	徳島大学	山口奈緒子	愛知医科大学
本田 健	山口大学	山崎 純	日本大学
前田真貴子	大阪大学	山崎 大樹	国立医薬品食品衛生研究所
益岡 尚由	金沢医科大学	山崎 弘美	敦賀市立看護大学
町田 拓自	北海道医療大学	山澤徳志子	東京慈恵会医科大学
松岡 功	高崎健康福祉大学	山下 正道	日本大学
松崎 伸介	和歌山県立医科大学	山田 清文	名古屋大学
松崎 俊博	琉球大学	山村 彩	愛知医科大学
松永 慎司	大阪市立大学	山村 寿男	名古屋市立大学
松本 明郎	東邦大学	山本 浩一	大阪大学
松本 欣三	富山大学	山本 秀幸	琉球大学
松本 貴之	星薬科大学	山本 隆一	九州保健福祉大学
松本 直樹	聖マリアンナ医科大学	屋山 勝俊	神戸学院大学
松本 裕子	日本大学	結城 幸一	旭川医科大学
松本みさき	京都府立医科大学	横田恵理子	慶應義塾大学
間宮 隆吉	名城大学	吉江 幹浩	東京薬科大学
丸田 豊明	宮崎大学	吉岡 充弘	北海道大学
丸ノ内徹郎	東京薬科大学	吉岡 靖啓	摂南大学
丸山 敬	埼玉医科大学	吉川 雄朗	東北大学
見尾 光庸	就実大学	吉川 紀子	武庫川女子大学
三澤日出巳	慶應義塾大学	吉澤 一巳	東京理科大学
水口 博之	大阪大谷大学	吉栖 正典	奈良県立医科大学
水谷 暢明	金城学院大学	吉田 真	高崎健康福祉大学
南 雅文	北海道大学	米山 雅紀	摂南大学
宮川 和也	国際医療福祉大学	李 昌一	神奈川歯科大学
宮岸 寛子	日本大学	劉 爽	愛媛大学
宮崎 育子	岡山大学	和氣 秀徳	岡山大学
宮田 篤郎	鹿児島大学	和田孝一郎	島根大学
宮田 茂雄	群馬大学	渡邊 直樹	京都大学
三輪 聡一	公立豊岡病院	渡辺 実	聖マリアンナ医科大学
村上 学	弘前大学	渡部 正彦	帝京大学
室井 喜景	帯広畜産大学		
毛利 彰宏	藤田医科大学		
茂木 正樹	愛媛大学		
森 秀治	就実大学		
森岡 徳光	広島大学		
森田 克也	広島文化学園大学		
森田 浩光	福岡歯科大学		
森本 達也	静岡県立大学		

## 第 35 回日本薬理学会学術奨励賞受賞者

(五十音順)

北岡 志保 (神戸大学 大学院医学研究科・講師)

『精神・神経変性疾患の病態形成に関与する脳内炎症および疾患モデル細胞を用いた創薬に関する研究』

出山 諭司 (金沢大学 医薬保健研究域薬学系 薬理学研究室・助教)

『レゾルビン類の抗うつ作用の機序解明と創薬応用に向けた薬理学的研究』

中村 達朗 (東京大学 大学院農学生命科学研究科・特任助教)

『食物アレルギーにおける PGD<sub>2</sub> の役割解明と治療, 診断への応用』